

事業報告書

事業年度

(第54期)

自 平成22年4月1日
至 平成23年3月31日

財団法人 実験動物中央研究所

目 次

事業報告

I. プロジェクト研究	1
II. 研究部門	2
A. 実験動物研究部	2
B. マーモセット研究部	3
C. バイオメディカル研究部	3
D. 病理病態研究部	3
III. 研究事業部門	5
A. 試験サービス事業部	5
ICLAS モニタリングセンター/モニタリング事業室	5
B. 動物資源管理部	6
IV. 基盤技術研究センター	7
V. その他プログラム	8
VI. 国際学術活動	9
VII. 発 表	10
VIII 学術集会	20
IX. 共同研究（公的研究費による研究）	23

総務報告

1. 役員に関する事項	29
2. 役員会に関する事項	29
3. 委員会活動報告	31
4. 海外出張	31
5. 教育・研修の受託	33
6. 見学・来所（国内・海外からの来訪者）	34
7. 留学（長期研修）	34
8. 許可・認可・承認に関する事項	35
9. 学位取得	35
10. 契約に関する事項	35
11. 寄付金に関する事項	35
12. 主務官庁の指示に関する事項	35
13. 特許権に関する事項	35
14. 叙勲・受賞に関する事項	36
15. 職員数	36
16. その他	36

（財）実験動物中央研究所維持会員制度

定例会議ならびに学術懇話会	41
維持会員に関する業務	42
財団法人 実験動物中央研究所維持会員規約	43
財団法人 実験動物中央研究所維持会員名簿	44

I. プロジェクト研究

1. ヒト化マウスプロジェクト

ヒト化マウスプロジェクトは、当研究所で開発した重度免疫不全NOG (NOD/Shi-scid, IL-2R γ KO) マウスにさらに改良を加えることでよりヒト化マウスに適した作出すること、それらを基礎とした創薬などのトランスレーショナル研究に適した実験系を確立することで、実験動物および動物実験系をよりユーザーの研究を推進できるような材料を提供することが目的である。

昨年度の大きな成果としては、1. 30余に及ぶ改良免疫不全マウスの作製が完了し、それらの解析が順調に行われていること、2. uPA-NOG、TK-NOGマウスでのヒト肝臓置換マウスでの成果が得られていることなどであり、今後ともこれら研究が順調に推移することが望める。

- 1) 新たな免疫不全マウスの作製と応用に関する研究
- 2) ヒト血液系細胞 in vivo モデルの作製
- 3) ヒト肝 in vivo モデルの作製
- 4) ヒト腫瘍 in vivo モデルの作製

2. 実験動物開発のための新技術プロジェクト

- 1) 新たな遺伝子改変法の開発に関する研究
- 2) 電磁場凍結を用いたほ乳類生体試料の新規保存方法の研究
- 3) 実験動物リソースバンクの構築
- 4) 新規実験動物基盤技術の開発と応用に関する研究

3. マーモセットによるヒト疾患モデル研究・開発プロジェクト

真猿類の高次機能と高い繁殖効率を持ち、実験用霊長類として実中研が30年来開発を進めてきた小型霊長類コモンマーモセットについて、ヒト疾患モデル動物の作出ならびに遺伝子改変動物の開発、抗体、cDNAなどの解析ツールの開発、運動機能、MR画像、病理的解析ならびに生産動物の規格化等に関し、多方面より総合的に検討するプロジェクトである。この研究開発は所内の各研究室ならびに事業部との協同で以下の5つのグループに分かれて実施された。本年度の研究内容は以下のごとくであった。

- 1) 治療方法開発のためのモデル動物作出
 - a. 脊髄損傷モデルの作出と治療法の検討
 - b. 心筋梗塞モデル作出と機能評価
 - c. アレルギー疾患モデルの作出
- 2) 生殖工学・遺伝子改変動物の開発と研究
- 3) 神経精神疾患の前臨床研究基盤の確立
- 4) 形態情報整備
- 5) 生産動物の規格化
 - a. 集団遺伝学的特性把握等コロニーの規格化
 - b. 微生物学的調査とモニタリング

4. 先端の実験動物研究手法樹立プロジェクト

- 1) 実験動物の分子病理解析プロジェクト
- 2) 実験動物の画像解析プロジェクト

- 3) 多型解析による研究用動物・細胞の遺伝モニタリング

II. 研究部門

A. 実験動物研究部

1. 動物医学研究室

昨年度まで実施したプロジェクト研究のプリオン病モデルの開発と応用に関する研究のデータおよび採集材料の保存を実施した。これら一連の感染実験の結果-すなわち、ヒト型、ウシ型変異プリオン遺伝子を導入した遺伝子改変マウスの作製、それらマウスを用いた感染実験によるマウス感受性の評価成績を現在まとめている。

2. 遺伝モニタリング研究室

- 1) Single Nucleotide Polymorphism(SNP、一塩基多型型)を用いた検査法の確立
- 2) 遺伝検査項目の再考

3. 実験動物遺伝育種研究室

実中研の兼任研究員であり、当研究室の非常勤室長である浜松医科大学・加藤秀樹によって、コモナーモセットや Wistar:Hanover ラットなどクローズドコロニー動物の遺伝的品質管理に関する学術的サポートをおこなった。さらに、マーモセットの飼育管理を依頼し、遺伝的多型解析も実施した。

4. 免疫研究室

- 1) 改良重度免疫不全 NOG マウスの有用性の検討
- 2) 異種細胞高生着性 NOG マウスの高生着性に関する基礎的研究

5. 遺伝子改変研究室

本研究室の研究活動は、実験動物開発の新技术プロジェクトの 1) 新たな遺伝子改変法の開発に関する研究の項を参照。主たる研究は、新たな遺伝子改変技術の改良、開発およびバイオリソースの提供である。

6. 生殖工学研究室

ほ乳類の生殖細胞、培養細胞および組織や臓器の収集・保存・個体復元に関する検討をおこなった。また、マウスやラットの生殖工学技術を使用したスピードコンジュニック法や、遺伝子組換え動物の作製方法と周辺機器の開発をおこなった。成果の発表については、研究事業部門B-3-fを参照。なお本研究の一部は文科省・特定奨励費で実施された。

- 1) ほ乳類生体試料の新しい保存方法の開発
- 2) 生殖工学基盤技術の開発改良
 - a. 超低温保存後の生存率と体外受精率が高く安定する卵子の保存方法を検討した。
 - b. 近交系マウス 129 系統の低体外受精率の原因を検査した。
- 3) 遺伝子組換え動物の作製と系統育成に関する新技术の検討
 - a. ラットのバッククロスの方法として、スピードコンジュニック法と生殖工学技術を組み合わせ、短時間で背景遺伝子を置換する検討を継続した。

B. マーモセット研究部

マーモセット研究部は疾患モデル研究室と管理支援室から成っている。管理支援室は疾患モデル研究室や応用発生学研究部で使用するマーモセットの飼育管理と実験補助を主業務としている。一方、疾患モデル研究室はマーモセットの品質や飼育技術の改善あるいは実験手技の開発・改良を通し、確実に疾患モデルを作出・維持し、最終的には疾患モデル動物を用いた治療法の開発に役立とうとするものである。

1. 疾患モデル研究室

- 1) コモンマーモセットの実験手技に関する検討
- 2) マーモセット飼育環境の改良
- 3) 生物材料の提供などのサービスの実施
- 4) 神経精神疾患モデルを用いた薬効・治療法評価の実施に関する研究

2. 応用発生生物研究室

動物愛護を考慮して、動物に対して非侵襲的または低侵襲的に胚移植、未受精卵を採取する方法として、軟性鏡を用いた経膈的、非観血的手法によるマーモセット胚移植法の確立を行った。また、II型糖尿病モデルマーモセット作出を目指し、マーモセットインスリンレセプターcDNA のクローニングを行った。現在、発現ベクターの作製およびマーモセットインスリンレセプターのウェスタンブロット解析の確立を行っている。

C. バイオメディカル研究部

1. 腫瘍資源研究室

ヒト化マウスプロジェクトなどの当研究所の主要な研究課題のがん分野における研究を行った。腫瘍の肝臓転移モデルや骨転移モデルの開発、同モデルのイメージング解析を行った。

2. 分子解析研究室

- 1) Hu-liver mouse の作製
免疫不全NOGマウスを基盤とした2種類の肝傷害モデル、(誘導型肝傷害 TK-NOGマウス、肝傷害自然発症 uPA-NOGマウス) について検討を行った。
- 2) hu-pancreas mouse の作製
今年度はhu-liver mouseと同様にヒトの膵臓細胞を保有させたhu-pancreas mouseの開発に着手した。
- 3) マイクロサテライトマーカーによる遺伝子多型解析
マーモセット個体やマウス系統の分類に有用なマイクロサテライトマーカー解析をキャピラリー電気泳動法で実施した。
- 4) PCRによる遺伝子検査法の開発・改良
点突然変異を示す自然ミュータントマウスに加え、遺伝子改変マウスにおいても遺伝子判定を従来のゲル電気泳動法からタックマンプローブを用いたリアルタイムPCR法に変更した。
- 5) トランスジェニック動物の導入遺伝子安定性に関する研究

自然発症肝傷害モデル uPA-NOG マウスについて、サザンブロット解析を実施し、導入遺伝子の安定性確認を行った。

D. 病理病態研究部

1. 画像解析研究室

本研究室は、平成 16 年 3 月に設置された小動物用超高磁場磁気共鳴画像装置（以下、MRI）の適正な運用・管理、および本装置を利用した種々実験の実施を主な事業とする。平成 23 年度は Biospec 7T をこれまで同様、「実験動物の画像解析」という新しい分野における基盤を築きつつ、下記のごとく種々の動物実験に応用した。

- 1) 神経微細構造の定量評価を目的とした形態的画像解析
- 2) 神経病態モデルにおける機能・代謝障害の画像解析

2. 分子形態研究室

プロジェクト研究および共同研究に対応するため、実験動物およびモデル動物における形態学的解析方法の研究を行ってきた。主として組織内における蛋白レベルでの解析方法として免疫組織化学染色を中心に検証を行い、新規に導入した自動免疫染色装置による大量の処理能力と安定した結果を取得する事が可能となった。

- 1) 免疫組織化学システム
自動免疫染色装置の導入に伴い、安定した染色結果を得ると同時に作業効率が向上した。
- 2) In situ Hybridization システム
核酸レベルでの病理組織学的解析方法の確立を行った。

3. ヒト化動物研究室

慶應義塾大学医学部との連携のもと、主に NOG マウスを用いたヒトがん細胞転移モデルにおけるがん進展の分子代謝学的特性を明らかにして新たな制癌治療戦略の開発につながる研究活動を展開した。

- 1) がんの微小環境ストレスの生物学的意義の解明
- 2) 新規がん進展モデル開発によるがんニッチ機構の解明
- 3) 網羅的代謝システム解析を駆使したがん病態の解明
- 4) 質量分析イメージングを駆使したがん病態代謝解析システムの開発

Ⅲ. 研究事業部門

A. 試験サービス事業部

1. ICLAS モニタリングセンター/モニタリング事業室

ICLAS モニタリングセンターの目的は、実験動物の微生物・遺伝モニタリングを通して国際的に実験動物の品質の向上および動物福祉に寄与しようとするものである。センターの主たる業務内容は、依頼検査の実施、検査技術の開発・改良ならびに品質管理の重要性の普及である。海外活動として、タイ国立実験動物センターと韓国科学技術院に ICLAS モニタリングサブセンターがあり、これらサブセンターにモニタリングキットなど標準物質の分与や研修生の受け入れなどを含む支援も行っている。

【微生物モニタリング】

1) 微生物検査の実施

大学等研究機関、製薬企業等あるいは生産業者が維持している動物について微生物モニタリングを実施した。

2) モニタリングの普及活動

モニタリングの普及活動としての標準物質の供給を行った。

3) モニタリング技術の精度管理システムの活用

ICLAS、Animal Quality Network が実施している Performance Evaluation Program (PEP) に参加し、今期は PEP 事務局への協力として、計 6 種（細菌サンプル 3 種、血清サンプル 3 種）のサンプルを供出した。

4) 感染症検査技術の開発・改良

- a. 新たな抗体検査システムの検討
- b. 新項目を含んだ検査項目セットの設定
- c. 検査項目の充実ならびに ELISA や PCR システムの拡充
- d. 電流型 DNA チップによる感染症検査システムの確立
- e. 臨床病理学的診断システムの確立

5) NOG マウスの各種微生物に対する感受性の検討

今年度は NOG マウスの皮膚疾患より頻繁に分離される *Staphylococcus sciuri* の感染実験を行い、本菌 NOG マウスの皮膚疾患の発病因子ではないことを証明した。

6) マウス消化管内正常細菌叢モニタリングシステムの確立

マウス消化管内正常細菌叢モニタリングシステム確立のために、従来の培養法に加え遺伝子診断法である Terminal Restriction Fragment Length Polymorphism (T-RFLP) 法導入の基礎的検討を継続した。

7) 広報活動(教育、情報収集)

- a. 微生物モニタリングに関する下記の研修会および講演を行った。
- b. 生産業者や研究機関等から検査用に送付された実験動物の血清を保存した“血清バンク”を継続した。
- c. ICLAS モニタリングセンターのホームページの管理・充実に継続した。

[遺伝モニタリング]

- 1) 遺伝的モニタリングや遺伝検査の受託業務
動物生産業者(ブリーダー)、製薬会社および外部研究機関等から検査依頼を受け、遺伝背景検査および染色体検査を実施した。
- 2) モニタリングの普及活動(研修会・講習会等の開催)
 - a. 遺伝モニタリングキットの染色試薬の頒布: 2 研究機関
 - b. 教育・啓蒙活動の一環として、実験動物の遺伝的モニタリング検査法に関する質問に対して 3 研究機関に技術指導を行った。
- 3) 検査技術の開発・改良
 - a. Single Nucleotide Polymorphism (SNP、一塩基多型)を用いた、近交系マウスの遺伝モニタリング検査法の検討を開始した。
 - b. 生化学的標識遺伝子を指標とする遺伝背景検査の検査項目の中で、判定等が困難な遺伝子マーカーについて、一部条件等を見直した。
 - c. 近交系マウスおよびラットのマイクロサテライトマーカーについて、整備の充実に努めた。
 - d. マウスM-FISHについて改めて条件検討を行い、感度を向上させることに成功した。
- 4) 広報活動
 - a. ICLASモニタリングホームページ等を通じて遺伝モニタリングの普及に努めた。
 - b. 第57回日本実験動物学会総会へのブース出展を行った。

2. 動物試験事業室

- 1) 受託試験
「NOG マウス・ヒト幹細胞移入/キメラ試験系を用いた薬効試験」および「NOG マウス・GVHD モデルを用いた薬効試験」を 4 件実施した。また「NOG マウスを用いた医療用細胞の安全性試験」や「NOG マウスを用いた医療用細胞の造腫瘍性確認試験」も 3 件受注し、本マウスの安全性評価ツールとして利用することへの期待の大きさが窺われた。
- 2) ヒト腫瘍株の維持、分与、品質管理
ヒト腫瘍株について在庫アンプルの補充等を含む整理を行った。総保有株は 450 株であり、219 株については、在庫量・ヒト及びげっ歯類主要感染病原体陰性・生着性が保証できる状態にある。
- 3) 検査技術の開発・背景データの採取
中大脳動脈結紮法によるマウス脳虚血モデル(田村法)の作出検討を行った。

B. 動物資源管理部

1. 資源管理事業室

- a. 一昨年 3 月に見直しされた出荷手順書を元に、新たに 4 名の教育訓練を行った。
昨年度から引き続き飼育管理を行う上での作業効率と安全性の向上に努めた。
- b. 本年度も DNA 安全委員会等関連委員の指導の下、遺伝子組換え体の情報提供を動物の発送先に確実に連絡を行うことができた。

2. 維持生産管理室

1) モデル動物作製システムの開発改良

- a. ヒト化マウスプロジェクトにおいて作出される改良型 NOG マウスのための育成、繁殖法の検討の一環として、NOG/Jic-Tg (Alb-HSVtk) 7-2 及び NOG/Jic-Tg (Alb-uPA) 11-4 の育成を継続した。
- b. マウスの系統育成の一環として、BALB/cA-RAG2K0. IL-2RgK0. nu (以下、BALB-dK0. nu)、BALB/cA-RAG2K0. IL-2RgK0. hr (以下、BALB-dK0. hr) および NOD/Shi-scid. IL-2RgK0. hr (以下、NOG-hr) マウスの作製を行っている。
- c. 外部研究機関へのマウスの系統分与ならびに動物実験用個体の供給を行った。自然交配および胚移植により作製した SPF グレードのマウス 14,743 匹を 95 機関に供給した。
- d. 系統動物の微生物的清浄化として、生殖工学技術と子宮切断術・里子法を組み合わせた微生物クリーニングを行った。

2) 広報活動・教育研修

本年度、新しく本所ホームページの作成に合わせて、事業内容の更新を行った。飼育管理や育種繁殖の教育・研修を通して技術の普及を行った。

3. 生殖工学事業室

- a. 実験動物の系統維持と個体生産および実験材料の一部を、保存胚を用いた供給システムに置き換えるため、所内で育成しているマウスを対象として 62 系統、27,944 個の胚を保存した。
- b. 所内外へ系統分与や実験用として動物個体を供給するために、マウスは 90 系統 6,689 匹の産子を生殖工学技術で作製した。
- c. 所内外からの依頼で 17 遺伝子の Tg マウスの作製と、2 遺伝子のキメラマウスの作製をおこなひ、得られた遺伝子改変動物の供給を行った。
- d. 保存した生殖細胞の情報や依頼者の情報の電子化を推進した。本年度は昨年度から継続して、電子化されたペディグリー情報をもとに、維持生産管理室が保存対象となる系統の採卵動物の作製を、生殖工学事業室が胚保存の作業を行った。
- e. マウス BALB 系統の胎子発生を向上させる目的で、過剰排卵誘起処置で使用するホルモンの濃度と投与間隔の検討を行った。
- f. 本年度、新しく本所ホームページの作成に合わせて、事業内容の更新を行った。開発技術の発表や、生殖工学技術の教育・研修を通して技術の普及を行った。

IV. 基盤技術研究センター

1. 動物実験・実験動物技術教育

1) AET (Animal Experimentation Technologist) セミナー

4月に開講し、月1回の割合で講義9回、実技2回を行い、年度末には考課試験および動物実験技術基礎課程の認定授与式などを実施した。

2) 専門家教育

本技術コースは、適正な動物実験を実践するための 1. 高度飼育環境管理 2. 無菌動物飼育管理 3. 生殖工学・発生工学技術の応用 4. 実験動物の品質管理 を目指した教育を実施し、高い技術・知識を備えた動物実験技術の習得を目的として行った。

3) その他の教育研修

当研究所の研究活動を効率良く行うために、研究所、各委員会と協力して新入所員研修、委員会研修などを行った。

2. 飼育技術研究室

1) 実験動物と飼育技術の開発改良

- a. 実験動物としての無菌動物の開発改良
- b. 実験動物としてのスunksの開発改良
- c. 各種モデル動物の飼育技術の開発改良

2) 実験動物の飼育環境ならびに飼育器具器材の開発改良

- a. 実験動物に適した飼育環境の調査
飼育室内の動物臭気の軽減を目的に光触媒を用いた脱臭効果の検討を行った。
- b. ビニールアイソレーターの開発改良
- c. 飼育器具器材の開発改良
ビニールアイソレーター内の飼育環境(換気回数、粉塵量)の改善を試みた。

V. その他プログラム

A. 公的普及活動

研究所の設立目的の一つに実験動物、実験動物科学の普及がある。そのため国内外の公的普及活動に努めている。

B. コンプライアンス活動

コンプライアンス意識の浸透を目的としてコンプライアンス部を中心に、外部コンプライアンス委員会、各部コンプライアンス担当責任者を置き活動@している。今年度は行動規範等の違反行為に関する報告はなかった。

VI. 国際学術活動

1. Center for Advancement of Health and Biosciences (CAHB) (米国カリフォルニア州)

CAHB は実中研の海外プロモーションセンターとしての機能を有するアメリカカリフォルニア州の非営利団体 NPO として、2001 年より活動している。

実中研グループの 1) 日米の大学研究所の国際学会の支援、2) NOG マウスの PR、3) Nurse2011 の開催、4) 日米バイオ企業の架橋、コンサルタント、5) IWH 開催支援を中心として、実中研グループの国際情報発信を中心に CAHB 支援団体との連携を推進する。そして、NPO 活動として、世界のバイオ支援機構として機能する実中研新研究所の建設、研究の支援を目的として、Gates 財団を始め、Chirstfer 財団、個人の Millionaire、Billionaires に啓蒙を呼びかけ、寄付活動も重点的に行っている。

2. PharmaLogicals Research (PLR) (シンガポール)

PLR との共同研究は、PLR としての第三期プロジェクト期を実施中である。NOG マウス移植腫瘍の分析によって、がんの進展に伴うがんの機能的形態的变化を検討・検出できるモデル構築の成果が上がりつつある。

3. International Council for Laboratory Animal Science (ICLAS)

世界で唯一の実験動物科学に関する国際組織である ICLAS に、日本から National Member、Scientific Member あるいは Associate Member として複数の研究機関が参画している。日本からの役員として、実中研関連では玉置憲一が副会長、鍵山直子 (北海道大学) が理事として、林元展人が ICLAS Animal Quality Network の Performance Evaluation Program 委員として活動を行なった。

4. ICLAS モニタリングサブセンター(タイ・韓国)

タイ：タイの Mahidol 大学内にあるタイ国立実験動物センター (NLAC) は実中研の支援を受け、実験動物の生産供給と品質管理活動を行なっている。

韓国：韓国の Korea Research Institute for Bioscience and Biotechnology にある ICLAS モニタリングサブセンターに必要な試薬の提供を行うとともに、センター員の相互訪問を行っている。

5. Asian Federation of Laboratory Animal Science Organization (AFLAS)

AFLAS はアジア地域各国の実験動物学会組織の連合体であり、2年に1回の大会を持ち回りで開催し、情報交換の目的で創設された組織である。

Ⅶ. 発 表

A. 定期刊行物等発表

- 1) M. Matsuyama, M. Wakui, M. Monnai, T. Mizushima, C. Nishime, K. Kawai, M. Ohmura, H. Suemizu, T. Hishiki, M. Suematsu, M. Murata, T. Chijiwa, D. Furukawa, K. Ogoshi, H. Makuuchi, M. Nakamura: Reduced CD73 expression and its association with altered purine nucleotide metabolism in colorectal cancer cells robustly causing liver metastases. *ONCOLOGY LETTERS* 1(3):431-436. 2010
- 2) M. Ito, W. Jiang, J. J. Sato, Q. Zhen, W. Jiao, K. Goto, H. Sato, K. Ishiwata, Y. Oku, J. J. Chai, H. Kamiya: Molecular Phylogeny of the Subfamily Gerbillinae (Muridae, Rodentia) with Emphasis on Species Living in the Xinjiang-Uygur Autonomous Region of China and Based on the Mitochondrial Cytochrome b and Cytochrome c Oxidase Subunit II Genes. *Zoolog Sci* 27:269-278. 2010
- 3) 伊藤守:「ヒト化マウスの現状」細胞工学 Vol. 29:238-242. 2010
- 4) 鍵山直子:「動物愛護管理法における 3R 原則の明文化と実験動物の適正な飼養保管」日獣会誌 63:395-398. 2010
- 5) S. Narushima, T. Sakata, K. Hioki, T. Itoh, T. Nomura, K. Itoh: Inhibitory Effect of Yogurt on Aberrant Crypt Foci Formation in the Rat Colon and Colorectal Tumorigenesis in RasH2 Mice. *Experimental Animals* 59(4):487-494. July 2010
- 6) K. Sato, C. Nie, N. Misawa, Y. Tanaka, M. Ito, Y. Koyanagi: Dynamics of memory and naive CD8+ T lymphocytes in humanized NOD/SCID/IL-2R γ null mice infected with CCR5-tropic HIV-1. *Vaccine* 28 supplement 2:32-37. 2010
- 7) H. Masuda, Y. Matsuzaki, E. Hiratsu, M. Ono, T. Nagashima, T. Kajitani, T. Arase, H. Oda, H. Uchida, H. Asada, M. Ito, Y. Yoshimura, T. Maruyama, H. Okano: Stem cell-like properties of the endometrial side population: implication in endometrial regeneration. *PLoS One* 5:10387. 2010
- 8) 鍵山直子:「実験動物福祉と AAALAC の認証」北獣会誌 54:301-305. 2010
- 9) 鍵山直子、浦野徹、片平清昭、日柳政彦、佐神文郎、務台衛、八神健一:「動物実験に関する法規制の近未来について」LABIO21.No. 41 July:6-10. 2010
- 10) K. Sato, T. Izumi, N. Misawa, T. Kobayashi, Y. Yamashita, M. Ohmichi, M. Ito, A. Takaori-Kondo, Y. Koyanagi: Remarkable Lethal G-to-A Mutations in vif-Proficient HIV-1 Provirus by Individual APOBEC3 Proteins in Humanized Mice. *J Virol* 84:9546-9556. 2010
- 11) H. Hashimoto, T. Eto, K. Endo, G. Itai, T. Kamisako, H. Suemizu, M. Ito: Comparative Study of Doses of Exogenous Progesterone Administration Needed to Delay Parturition in Jcl:MCH(ICR) Mice. *Experimental Animals* 59:521-524. 2010
- 12) Wong, W. F., M. Nakazato, T. Watanabe, K. Kohu, T. Ogata, N. Yoshida, Y. Sotomaru, M. Ito, K. Araki, J. Telfer, M. Fukumoto, D. Suzuki, T. Sato, K. Hozumi, S. Habu, M. Satake: Over-expression of Runx1 transcription factor impairs the development of thymocytes from the double-negative to double-positive stages. *Immunology* 130:243-253. 2010
- 13) H. Hashimoto, N. Moritani, M. Terada, Pudcharaporn KROMKHUN, Wirasak FUNGFUAUG, T. Nakada, M. Yokosuka, Toru R. Saito: Improvement of hyperglycemia and sexual dysfunction in diabetic

- female rats by an artificial endocrine pancreas developed from mouse β cells. *Experimental Animals* 59:515-519. 2010
- 14) H. Hashimoto, T. Eto, K. Endo, G. Itai, T. Kamisako, H. Suemizu, M. Ito: Comparative study on doses of exogenous progesterone administration to delay parturition in Jcl:MCH(ICR) mice. *Experimental Animals* 59:521-524. 2010
 - 15) 疋島啓吾、藤吉兼浩、岡野栄之:「脊髄損傷モデルの拡散 MRI」 *Medical Science Digest* 36(11):1038-1041. 2010
 - 16) K. Tsuiji, T. Takeda, B. Li, A. Kondo, M. Ito, N. Yaegashi: Establishment of a novel xenograft model for human uterine leiomyoma in immunodeficient mice. *Tohoku J Exp Med* 222:55-61. 2010
 - 17) M. Shiokawa, T. Takahashi, A. Murakami, S. Kita, M. Ito, K. Sugamura, N. Ishii: In vivo assay of human NK-dependent ADCC using NOD/SCID/gammac(null) (NOG) mice. *Biochem Biophys Res Commun* 399:733-737. 2010
 - 18) 涌井昌俊、末水洋志:「NOG マウスを用いたヒト化動物モデルの研究展開」 *生化学*. 第 82 巻第 4 号:314-318. 2010
 - 19) M. Honda, R. Komatsu, Henry H. Holzgrefe, Y. Yamada, T. Isobe, K. Kimura, T. Itoh, N. Tamaoki, M. Tabo: Application of probabilistic analysis for precisely correcting the QT interval for heart rate in telemetered common marmosets. *J Pharmacol Toxicol Methods* 61(3):264-270. 2010
 - 20) R. Komatsu, M. Honda, H. H. Holzgrefe, J. Kubo, Y. Yamada, T. Isobe, K. Kimura, T. Ito, N. Tamaoki, M. Tabo: Sensitivity of common marmosets to detect drug-induced QT interval prolongation: moxifloxacin case study. *J Pharmacol Toxicol Methods* 61(3):271-276. 2010
 - 21) 伊藤豊志雄:「モデル生物の歴史と展望」シリーズ、「コモンマーモセットの歴史と展望-Biomedical Super Model の期待」 *実験動物医学* Vol. 28(18) : 3029-3032. 2010
 - 22) Li W, H. Yamashita, F. Hattori, Chen. H, S. Tohyama, Y. Sato, E. Sasaki, S. Yuasa, S. Makino, M. Sano, K. Fukuda: (2011) Simple autogeneic feeder cell preparation for pluripotent stem cells. *Stem Cell Res* Jan 6(1):83-89. Epub 2010 Nov 1
 - 23) I. Tomioka, T. Maeda, H. Shimada, K. Kawai, Y. Okada, H. Igarashi, R. Oiwa, T. Iwasaki M. Aoki, T. Kimura, S. Shiozawa, H. Shinohara, H. Suemizu, E. Sasaki, H. Okano: Generating induced pluripotent stem cells from common marmoset (*Callithrix jacchus*) fetal liver cells using defined factors, including Lin28. *Genes to Cells* 15:959-969. 2010 . Epub 2010 Jul 28
 - 24) 佐々木えりか: 遺伝子改変霊長類作出法の確立 レンチウイルスベクターによる遺伝子導入法でトランスジェニックマーモセットを作出. *化学と生物* Vol. 48 No. 6 559:372-374. 2010
 - 25) 伊藤守:「ヒト化マウスの現状と将来展望」 *MDS (Medical Science Digest)* 37: 44-45. 2011
 - 26) M. Hasegawa, K. Kawai, T. Mitsui, K. Taniguchi, M. Monnai, M. Wakui, M. Ito, M. Suematsu, G. Peltz, M. Nakamura, H. Suemizu. : The Reconstituted 'Humanized Liver' in TK-NOG Mice is Mature and Functional. *Biochem Biophys Res Commun* 405:405-410. 2011
 - 27) Y. Imaizumi, M. Sakaguchi, T. Morishita, M. Ito, F. Poirier, K. Sawamoto, H. Okano: Galectin-1 is expressed in early-type neural progenitor cells and down-regulates neurogenesis in the adult hippocampus. *Mol Brain* 4:7. 2011
 - 28) 伊藤守:「ヒト化 NOG マウス」 423-429. 「生物機能モデルと新しいリソース・リサーチツール」 Series モデル動物利用マニュアル. 671. 2011

- 29) K. Hikishima, MM. Quallo, Y. Komaki, M. Yamada, K. Kawai, S. Momoshima, HJ. Okano, E. Sasaki, N. Tamaoki, RN Lemon, A. Iriki, H. Okano: Population-averaged standard template brain atlas for the common marmoset (*Callithrix jacchus*). *NeuroImage* 54:2741-2749. 2011
- 30) H. Oshima, K. Hioki, Boryana K. Popivanova, K. Oguma, Nico Van Rooijen, T. Ishikawa, M. Oshima: Prostaglandin E2 Signaling and Bacterial Infection Recruit Tumor-Promoting Macrophages to Mouse Gastric Tumors. *Gastroenterology* 140 (2):596-607. 2011
- 31) K. Sawamoto, Y. Hirota, C. Alfaro-Cervello, M. Soriano-Navarro, X. He, Y. Hayakawa-Yano, M. Yamada, K. Hikishima, H. Tabata, A. Iwanami K. Nakajima, Y. Toyama, T. Ito, A. Alvarez-buylla, J. Garcia-Verdugo, H. Okano: Cellular composition and organization of the subventricular zone and rostral migratory stream in the adult and neonatal common marmoset brain. *J Comparative Neurology* 519(4):690-713. 2011
- 32) 江袋進:「Ⅲ. スンクスの嘔吐の特性と系統の育成」スンクスの生物学. 学会出版センター:90-92. Mar. 2011
- 33) H. Yamazaki, H. Suemizu, S. Igaya, M. Shimizu, N. Shibata, M. Nakamura, G. Chowdhury, FP. Guengerich: In Vivo Formation of a Glutathione Conjugate Derived from Thalidomide in Humanized uPA-NOG Mice. *Chem Res Toxicol* 24:287-289. 2011
- 34) S. Shiozawa, K. Kawai, Y. Okada, I. Tomioka, T. Maeda, A. Kanda, H. Shinohara, H. Suemizu, Okano. H. J., Y. Sotomaru, E. Sasaki, H. Okano: (2011) Gene targeting and subsequent site-specific transgenesis at the β -actin (ACTB) locus in common marmoset embryonic stem cells. *Stem Cells Dev.* Jan:16. 2011 [Epub ahead of print
- 35) M. Hasegawa, K. Kawai, T. Mitsui, K. Taniguchi, M. Monnai, M. Wakui, M. Ito, M. Suematsu, Gary Peltz, M. Nakamura, H. Suemizu: The reconstituted 'humanized liver' in TK-NOG mice is mature and functional. *Biochemical and Biophysical Research Communications* 405(3):405-410. 2011
- 36) H. Hashimoto: Study on Establishment of Congenic Strains and Screening of Characteristics in IRS-2 Deficient Mice to Support Translational Research on Type 2 Diabetes. *Experimental Animals* 60(1):21-32. 2011

B. 学会発表

- 1) H. Shinohara, T. Sofuni, I. Tomioka, E. Sasaki, A. Takakura T. Itoh: Chromosomal abnormalities found in common marmoset induced pluripotent stem (iPS) cells. 4th International Conference on Primategenomics. 13-16 April, 2010. Seattle
- 2) K. Hikishima, K. Fujiyoshi, M. Yamada, Y. Komaki, S. Momoshima, K. Yagi, N. Tamaoki, Y. Toyama, M. Nakamura, H. Okano: Myelin visualization using q-space MRI. 18th ISMRM. 1-7 May, 2010. Stockholm
- 3) K. Hikishima, M. Yamada, K. Fujiyoshi, S. Momoshima, K. Kawai, M. Nakamura, N. Tamaoki, H. Okano: Resolving of Crossing Pathways in the Optic Chiasm of Marmoset Monkey using Diffusion Tractography with High Spatial and Angular Resolution. 18th ISMRM. 1-7 May, 2010. Stockholm
- 4) 中畑龍俊、伊藤守:「再生医療の基礎研究に有用なヒト化動物」シンポジウム 3「再生医療の幕を開く動物実験」第57回日本実験動物学会総会. 2010年5月12日~14日. 京都
- 5) 伊藤亮治、片野いくみ、川井健司、伊藤守:「NOGマウスを用いた xeno-GVHD 抑制機構の解明」

第 57 回日本実験動物学会総会. 2010 年 5 月 12 日～14 日. 京都

- 6) 片野いくみ、伊藤亮治、佐々木正史、上迫努、江藤智生、末水洋志、伊藤守：「ヒト IL-4 遺伝子導入 NOG マウスでは末梢血単核球の移植後に起こる GVHD を抑制する」第 57 回日本実験動物学会総会. 2010 年 5 月 12 日～14 日. 京都
- 7) 伊田幸、上迫努、江藤智生、末水洋志、伊藤守：「分化シグナル阻害剤を用いた NOG マウス由来 ES 細胞株の樹立」第 57 回日本実験動物学会総会. 2010 年 5 月 12 日～14 日. 京都
- 8) 嶋田新、山田祐子、末水洋志、伊藤豊志雄、佐竹正延、谷憲一、佐々木えりか、伊藤守、垣生園子、亀谷美恵：「コモンマーモセット末梢血前期細胞の多分化能解析」第 57 回日本実験動物学会総会. 2010 年 5 月 12 日～14 日. 京都
- 9) 豊田史香、井上貴史、伊藤豊志雄：「コモンマーモセットのプロポフォル静脈麻酔方法の検討」第 57 回日本実験動物学会総会. 2010 年 5 月 12 日～14 日. 京都
- 10) 篠原晴香、祖父尼俊雄、富岡郁夫、佐々木えりか、高倉彰、伊藤豊志雄：「コモンマーモセット由来 iPS 細胞の染色体異常」第 57 回日本実験動物学会総会. 2010 年 5 月 12 日～14 日. 京都
- 11) 高橋司、富岡郁夫、島田亜樹子、吉岡耕治、佐々木えりか：「コモンマーモセット未成熟卵子の完全合成培地における体外成熟培養」第 57 回日本実験動物学会総会. 2010 年 5 月 12 日. 京都
- 12) 外丸祐介、吉岡みゆき、塩澤誠司、信清麻子、佐々木えりか：「コモンマーモセットクローン胚の発生能へのドナー細胞腫および細胞周期への影響」第 57 回日本実験動物学会総会. 2010 年 5 月 12 日～14 日. 京都
- 13) T.Eto, T.Kamisako, M.Ito: Re-cryopreservation of mouse embryos after vitrification. HELSINKI 2010: The triennial FELASA symposium. 14-17 June, 2010. Helsinki
- 14) T.Kamisako, T.Eto: The development of the in vitro fertilization medium suitable for inbred BALB/c mice. HELSINKI 2010: The triennial FELASA symposium. 14-17 June, 2010. Helsinki
- 15) 浦野浩司、町田一彦、吉村マスミ、富澤政史、保田昌彦、野村達次：「rasH2 マウスにおける発がん感受性モニタリング簡略化の試み」第 37 回日本トキシコロジー学会総会. 2010 年 6 月 16 日～18 日. 沖縄
- 16) 町田一彦、浦野浩司、吉村マスミ、富澤政史、保田昌彦、野村達次：「MNU のメーカーの違いによる rasH2 マウス発がん性差異の検討」第 37 回日本トキシコロジー学会総会. 2010 年 6 月 16 日～18 日. 沖縄
- 17) 河部真弓、沼野琢旬、勝呂繭子、土井悠子、今井則夫、古川文夫、浦野浩司、堤秀樹：「rasH2 マウスの肺を用いた超短期発がん性試験法の開発」第 37 回日本トキシコロジー学会総会. 2010 年 6 月 16 日～18 日. 沖縄
- 18) I.Tomioka, T.Maeda, H.Igarashi, R.Oiwa, H.Okano, E.Sasaki: Generating Induced Pluripotent Stem Cells from Common Marmoset Liver Cells. International Society for Stem Cell Research, 8th Annual Meeting. 16-19 June, 2010. San Francisco
- 19) I.Tomioka, T.Maeda, H.Igarashi, R.Oiwa, H.Okano, E.Sasaki: Generating Induced Pluripotent Stem Cells from Common Marmoset Fetal Liver Cells Using Defined Factors, including Lin28. iPS・ES・体性幹細胞 Forum 2010～基礎研究から臨床応用・創薬研究へ～. 2010 年 6 月 29 日～30 日. 東京
- 20) 高橋司、富岡郁夫、島田亜樹子、吉岡耕治、佐々木えりか：「コモンマーモセット未成熟卵子上における完全合成培地を用いた体外成熟培養の検討」iPS・ES・体性幹細胞 Forum 2010～基礎研究から臨床応用・創薬研究へ～. 2010 年 6 月 29 日～30 日. 東京

- 21) 前田拓志、島田亜樹子、大岩亮、塩澤誠司、富岡郁夫、南本敬司、永井裕司、須原哲也、岡野ジェームス洋尚、佐々木えりか、岡野秀之：「パーキンソン病モデルトランスジェニックマーマーモセットの作出について」iPS・ES・体性幹細胞 Forum 2010～基礎研究から臨床応用・創薬研究へ～。2010年6月29日～30日。東京
- 22) K. Urano, M. Yasuda, H. Tsutsumi, M. Kawabe, M. Suguro, T. Numano, F. Furukawa: 「Establishment of two-stage skin Carcinogenicity study in CB6F1 TgrasH2 mice」12th International Congress of Toxicology. July 10-23, 2010. Spain
- 23) H. Ikeda, S. Okamoto, J. Mineno, N. Imai, S. Kageyama, M. Ito, M. Yasukawa, K. Takesako, H. Shiku: Gene-modified lymphocytes A translational bridge to effective T cell therapy of cancer. 第16回日本遺伝子治療学会。2010年7月15～17日。福岡
- 24) 前田拓志、島田亜樹子、大岩亮、塩澤誠司、富岡郁夫、南本敬司、永井裕司、須原哲也、岡野ジェームス洋尚、佐々木えりか、岡野秀之：「パーキンソン病モデルトランスジェニックマーマーモセット作出の試み」文部科学省「脳科学研究戦略推進プログラム」平成22年度第1回分科会。2010年7月27日～28日。北海道
- 25) 塩澤誠司、川井健司、富岡郁夫、前田拓志、外丸祐介、末水洋志、佐々木えりか、岡野栄之：「マーマーモセット胚性幹細胞における部位特異的遺伝子導入法の開発」文部科学省「脳科学研究戦略推進プログラム」平成22年度第1回分科会。2010年7月27日～28日。北海道
- 26) 吉岡みゆき、信清麻子、畠山照彦、西本瞳、野尻智子、神田暁史、佐々木えりか、外丸祐介：「コモンマーマーモセット卵巣刺激法の検討」文部科学省「脳科学研究戦略推進プログラム」平成22年度第1回分科会。2010年7月27日～28日。北海道
- 27) 井上貴史、伊藤豊志雄、佐々木えりか：「マーマーモセットを用いた適正な動物実験実施のために」文部科学省「脳科学研究戦略推進プログラム」平成22年度第1回分科会。2010年7月27日～28日。札幌
- 28) I. Tomioka, A. Shimada, E. Sasaki: Optimization of Nonviral Methods to Produce Transgenic Common Marmoset (*Callithrix jacchus*) Embryos. Society for Study of Reproduction, 43rd Annual Meeting. 29 July-3 August, 2010. Milwaukee
- 29) T. Takahashi, I. Tomioka, A. Shimada, K. Yoshioka, E. Sasaki: Effect of Different Maturation Media in vitro-matured common marmoset oocytes. Society for the Study of Reproduction 2010. 29 July-3 August, 2010. Milwaukee
- 30) T. Takahashi, I. Tomioka, A. Shimada, K. Yoshioka, E. Sasaki: Effect of Maturation Media on Maturation of common marmoset oocytes and Subsequent Embryo Development. 4th International Symposium on Primate Research 2010. 16-17 August, 2010. Kuning
- 31) I. Tomioka, T. Maeda, H. Igarashi, R. Oiwa, H. Okano, E. Sasaki: Generating Induced Pluripotent Stem Cells from Common Marmoset (*Callithrix jacchus*) Fetal Liver Cells using Defined Factors, including Lin28. 4th International Symposium on Primate Research. 16-18 August, 2010. Kunming
- 32) M. Ito: Super immunodeficient NOG mice for generating humanized mice. In symposium "Mouse models for human diseases". 2010 KALAS International Symposium. 19-21 August, 2010. Busan
- 33) K. Sato, N. Misawa, C. Nie, Y. Satou, M. Matuoka, M. Ito, Y. Koyanagi: Investigation of HIV-1 pathogenesis in humanized mice. 14th International Congress of Immunology. 23-27 August, 2010. Kobe

- 34) T. Takahashi, M. Suzuki, I. Katano, R. Ito, N. Ishii, M. Ito, K. Sugamura: The analysis of the functions of human T cells in humanized NOD/shi-scid/gamma Cnull (NOG)-HLA transgenic mice. 14th International Congress of Immunology. 23-27 August, 2010. Kobe
- 35) I. Katano, R. Ito, K. Kawai, H. Suemizu, M. Ito: Immunodeficient NOG mice secreting human IL-4 avoid from GVHD after human PBMC transfer. 14th International Congress of Immunology. 23-27 August, 2010. Kobe
- 36) R. Ito, I. Katano, E. Hayakawa, K. Kawai, S. Aiso, M. Ito: Xeno-GVHD occurred in NOG mice after transfer of CD4 and CD8 T cells human PBMC. 14th International Congress of Immunology. 23-27 August, 2010. Kobe
- 37) Y. Tokuda, Y. Kametani, H. Miyako, I. Katano, R. Ito, Y. Saito, D. Ishikawa, K. Imai, S. Habu, H. Makuuchi: Tumor suppression in mice immunized with multiple antigen peptide based on an antibody epitope against Her-2. 14th International Congress of Immunology. 23-27 August, 2010. Kobe
- 38) 富岡郁夫、島田亜樹子、佐々木えりか：「コモンマーモセット胚への非ウイルス的遺伝子導入法の検討」第 103 回日本繁殖生物学会大会。2010 年 9 月 1 日～4 日。十和田
- 39) 吉岡みゆき、信清麻子、畠山照彦、西本瞳、野尻智子、神田暁史、佐々木えりか、外丸祐介：「コモンマーモセット卵巣刺激法および未成熟卵子体外成熟法の検討」第 103 回日本繁殖生物学会大会。2010 年 9 月 2 日～4 日。十和田
- 40) 田中伸明、上迫努、江藤智生：「画像処理機能を有するマニピュレータの開発」第 44 回実験動物技術者協会全国総会。2010 年 9 月 3 日～4 日。旭川
- 41) 上迫努、田中伸明、佐藤晃、遠藤圭子、板井元、伊藤亮治、江藤智生：「電動操作可能なマニピュレータを用いたトランスジェニックマウスの作製」第 44 回実験動物技術者協会全国総会。2010 年 9 月 3 日～4 日。旭川
- 42) ・安東潔、疋島啓吾、小牧裕司、井上貴史、伊藤豊志雄、永井裕司、須原哲也、岡野栄之、玉置憲一、野村達次：「MPTP 投与パーキンソン病モデル・マーモセット脳の MRI による *in vivo* 解析」日本神経精神薬理学会年会。2010 年 9 月 16 日。仙台
- 43) I. Kato, A. Niwa, T. Heike, M. Saito, S. Saida, H. Fujino, K. Umeda, S. Adachi, M. Ito,
- 44) F. Ishikawa, T. Nakahata: A novel therapy for ALL by targeting the extramedullary sites. 第 72 回日本血液学会。2010 年 9 月 24 日～26 日。横浜
- 45) R. Ito, I. Katano, K. Kawai, S. Aiso, M. Ito: Interferon-gamma produced by IKDC has a crucial role in suppression of xeno-GVHD in NOG mice. The 11th International Symposium on Dendritic Cells. 26-30 September, 2010. Lugano,
- 46) 山田雅之、常富千晶、梅沢栄三、山田知歩子、宮坂尚幸、小牧祐司、疋島啓吾、藤吉兼浩、中村雅也、百島祐貴、岡野栄之、玉置憲一：「数個の b 値に対応する拡散強調画像から算出した高次モーメント統計量によるラット脳マッピングの試み」第 38 回日本磁気共鳴医学会大会。2010 年 9 月 30 日～10 月 2 日。つくば
- 47) 佐藤佳、三沢尚子、Chuanyi Nie、佐藤賢文、松岡雅雄、高橋玲、伊藤守、高田賢蔵、小柳義夫：「ヒト化マウスを用いた EBV 関連血球貪食性リンパ組織球症モデルマウスの確立」第 58 回日本ウイルス学会。2010 年 11 月 7 日～9 日。徳島
- 48) K. Ando, K. Hikishima, Y. Komaki, T. Inoue, T. Itoh, Y. Nagai, T. Suhara, H. Okano, N. Tamaoki, T. Nomura: *In vivo* MRI analysis of MPTP-induced parkinsonian marmoset brains. Society for

Neuroscience 2010. 17 November, 2010. San Diego

- 49) 佐々木えりか：「マーマセットを用いた iPS 細胞再生医療前臨床研究システムの構築」CREST/さきがけ「iPS 細胞研究領域」合同シンポジウム 2011. 2011 年 1 月 14 日. 東京
- 50) 勝呂繭子、河部真弓、沼野琢旬、原智美、古川文夫、浦野浩司、堤秀樹：「rasH2 マウスを用いた発がん物質および非発がん物質の超短期皮膚二段階発がん性試験」第 27 回日本毒性病理学会. 2011 年 1 月 27 日～28 日. 大阪
- 51) I. Tomioka, T. Maeda, H. Igarashi, R. Oiwa, H. Okano, E. Sasaki: Generating Induced Pluripotent Stem Cells from Common Marmoset (*Callithrix jacchus*) Fetal Liver Cells using Defined Factors, including Lin28. 2011 KALAS Winter Symposium 18-19 February, 2010. Yong Pyong resort
- 52) 高橋司、山田祐子、島田亜樹子、佐々木えりか：Effect of Serum on Maturation and Subsequent Development of Common Marmoset Oocytes during in vitro maturation. 2011 KALAS Winter Symposium. 18-19 February, 2010. Yong Pyong resort
- 53) 安東潔：「パーキンソン病モデルの作製」第 4 回 In vivo 実験医学シンポジウム -In vivo 実験医学の今後の展望-. 2011 年 2 月 23 日. 東京
- 54) 佐々木えりか：「トランスジェニックマーマセットの作製」第 4 回 In vivo 実験医学シンポジウム -In vivo 実験医学の今後の展望-. 2011 年 2 月 23 日. 東京
- 55) 原晃一、井上賢、武藤淳、金子奈穂子、豊田史香、疋島啓吾、伊藤豊志雄、澤本和延、河瀬斌、吉田一成、岡野栄之：「コモンマーマセット低侵襲一過性中大脳動脈閉塞モデルの開発と解析」第 10 回日本再生医療学会総会. 2011 年 3 月 1 日～2 日. 東京
- 56) 江藤智生、上迫努、伊藤守：「マウス超低温保存胚をもちいた系統分与方法の検討～受け入れ先の保存方法で超低温保存胚を再保存する技術の基礎的検討～」第 36 回日本実験動物技術者協会関東支部懇話会. 2011 年 3 月 5 日. 東京
- 57) K. Urano, M. Kawabe, M. Suguro, T. Numano, M. Yasuda, H. Tsutsumi, F. Furukawa: 「Establishment of 2-step ultra-short-term carcinogenicity test in CB6F1 Tg rasH2 mice - Study on several promoters -」 50th SOT. 6-10 March, 2011. USA.
- 58) Y. Shimamura, R. Arai, A. Sunohara, F. Baba, K. Urano, H. Tsutsumi, M. Ito, A. Hirayama, M. Sugimoto, T. Soga, T. Nomura, M. Tomita: 「Application of rasH2 mouse in carcinogenesis and biomarker studies」 50th SOT. 6-10 March, 2011. USA

C. 講義・講演等

- 1) E. Sasaki: Generation of transgenic nonhuman primates with germline transmission. 4th International Conference on Primate Genomics. 13-16 April, 2010. Seattle
- 2) 高垣善男：「動物実験のための科学と技術の教育」第 1 回 AET セミナー. 2010 年 4 月 24 日(所内)
- 3) 齋藤宗雄：「適正な実験動物と実験動物の開発改良」第 1 回 AET セミナー. 2010 年 4 月 24 日(所内)
- 4) 服部祐二：「適正な動物実験」第 2 回 AET セミナー. 2010 年 5 月 22 日 (所内)
- 5) 伊藤豊志雄：「実験動物の飼育管理に係る法律」第 2 回 AET セミナー. 2010 年 5 月 22 日 (所内)
- 6) 末水洋志：「遺伝子組換え動物の取り扱いに係る法律」第 2 回 AET セミナー. 2010 年 5 月 22 日

(所内)

- 7) 日置恭司：「実験動物の基盤技術を考える」第46回日本クレア技術部合同研修会議。2010年5月28日。御殿場
- 8) 伊藤豊志雄：「なぜ実験動物が必要か/実験動物の一般生理」第3回AETセミナー。2010年6月19日(所内)
- 9) 日置恭司：「育種と繁殖」第3回AETセミナー。2010年6月19日(所内)
- 10) 日置恭司、末水洋志：「動物実験を始めるにあたって」東京農業大学動物実験ガイダンス。2010年6月25日。世田谷
- 11) 伊藤豊志雄：「動物の倫理」麻布大学獣医学部。2010年7月5日
- 12) 伊藤守：「ヒト化マウスの開発」北海道大学大学院共通授業－動物実験倫理特別講義－。2010年7月13日
- 13) 伊藤豊志雄：「実験動物の微生物学的品質管理」東京大学農学部獣医学科。2010年7月14日
- 14) 日置恭司：「実験動物(マウス、ラット)の特性と飼育器材」第4回AETセミナー。2010年7月24日(所内)
- 15) 堤秀樹：「実験動物(イヌ、ネコ、ブタ、その他)の特性と飼育器材」第4回AETセミナー。2010年7月24日(所内)
- 16) 今井都泰：「実験動物の飼育装置および設備の管理」第4回AETセミナー。2010年7月24日(所内)
- 17) 佐々木えりか：「脳神経科学に有用な遺伝子改変霊長類モデルの作製」包括型脳科学研究推進支援ネットワーク 夏のワークショップ。2010年7月27日～30日。北海道
- 18) E.Sasaki: Generation of transgenic nonhuman primate. 4th International Symposium on Primate Research. 16-17 August, 2010. Kunming
- 19) M. Ito: Introduction of immunodeficient NOG mice appropriate for generating humanized mice. Korea Research Institute of Bioscience and Biotechnology (KRIBB). 18 August, 2010. Daejeon
- 20) 小倉智幸：「実験動物(マウス、ラット)の飼育管理」第5回AETセミナー。2010年8月21日(所内)
- 21) 日置恭司：「無菌動物(マウス、ラット)の飼育管理」第5回AETセミナー。2010年8月21日(所内)
- 22) 井上貴史：「実験動物(マーモセット、他サル類)の特性と飼育器材」第5回AETセミナー。2010年8月21日(所内)
- 23) 上迫努、江藤智生：「実験動物の感染症と検査および微生物クリーニング」日本実験動物技術者協会 第310回実験動物技術講習会。2010年9月10日～11日。相模原
- 24) E.Sasaki: Generation of transgenic nonhuman primates with germline transmission. International Primatological Society, XXIII Congress. 12-18 September, 2010. Kyoto
- 25) I. Tomioka, E. Sasaki: Recent Progress in Reproductive Technologies Based on the Common Marmoset (*Callithrix jacchus*). Application of ES and iPS cells. International

- Primatological Society XXIII Congress. 12-18 September, 2010. Kyoto
- 26) 浦野浩司：「動物実験の必要性和適切な動物実験」第6回AETセミナー。2010年9月18日（所内）
 - 27) 町田一彦：「動物実験の基本操作(投与、採取、解剖)」第6回AETセミナー。2010年9月18日（所内）
 - 28) E. Sasaki : Usefulness of Transgenic Marmoset in Biomedical Science. University of Texas Health Science Center. 20 September, 2010. San Antonio
 - 29) E. Sasaki : Generation of transgenic marmoset with germline transmission. Neotropical Primates in Biomedical Research Workshop. 22-23 September, 2010. NIH Bethesda
 - 30) I. Tomioka, E. Sasaki : Recent progress in reproductive technologies based on the common marmoset (*Callithrix jacchus*). Production of transgenic marmoset and its applications in biomedical science. 18th Primate Symposium. 5-6 October, 2010. Munster
 - 31) 伊藤守：「外界と生体のインターアクション」東大農学部大学院講義。2010年10月8日、15日、22日
 - 32) 浦野浩司、町田一彦、富澤政史、小倉智幸、西中栄子、伊藤亮治、片野いくみ、黒沼美由樹、安藤康彦、尾方渚：「動物実験の基本技術(個体識別、体重測定、保定、経口、皮下、腹腔内投与など)」第7回AETセミナー。2010年10月16日（所内）
 - 33) 伊藤亮治：「高度免疫不全 NOG マウスの開発」PI フォーラム研究分科会講演。2010年10月20日。東京
 - 34) 疋島啓吾：「q-space imaging」第43回 Radiology Update 学術講演会。東京コンファレンスセンター・品川。2010年10月30日。東京
 - 35) E. Sasaki : Non-Human Transgenic Primate in Biomedical Science. The 4th AFLAS Congress Meeting. 9-11 November, 2010. Taipei
 - 36) 浦野浩司、町田一彦、堤秀樹、富澤政史、小倉智幸、西中栄子、伊藤亮治、片野いくみ、黒沼美由樹、安藤康彦、尾方渚：「動物実験の基本技術と解剖」第8回AETセミナー。2010年11月13日（所内）
 - 37) 堤秀樹：「rasH2 マウスを用いた短期発がん性試験の現状と今後の課題」日本製薬工業協会 基礎研究部会セミナー。2010年11月18日。東京
 - 38) 佐々木えりか：「再生医療前臨床研究のための霊長類動物実験システム確立に向けて」第6回霊長類医科学フォーラム。2010年11月18日。つくば
 - 39) 佐々木えりか：「再生医療前臨床研究のための霊長類実験動物システム確立に向けて」第3回滋賀医科大学サルシンポジウム。2010年12月3日。大津
 - 40) 伊藤豊志雄：「異常動物への対応、微生物モニタリング」第9回AETセミナー。2010年12月12日（所内）
 - 41) 上迫努：「感染症マウスの微生物的清浄化（微生物クリーニング）」第9回AETセミナー。2010年12月12日（所内）

- 42) 林元展人：「微生物モニタリングの実際」第10回AETセミナー。2011年1月15日（所内）
- 43) 富澤政史：「遺伝モニタリングの実際」第10回AETセミナー。2011年1月15日（所内）
- 44) 小倉智幸：「無菌動物（マウス、ラット）の飼育管理」 Korean Research Institute of Bioscience and Biothechnology (KRIBB). 2011年1月21日。韓国
- 45) H. Okano, E. Sasaki : Common marmoset as a model system to study human brain functions.
- 46) 伊藤守：「遺伝子操作動物作成の基礎と歴史」第11回AETセミナー。2011年2月12日（所内）
- 47) 江藤智生：「生殖工学・発生工学-その周辺技術-」第11回AETセミナー。2011年2月12日（所内）
- 48) 末水洋志：「ヒト疾患モデル動物」第11回AETセミナー。2011年2月12日（所内）
- 49) E. Sasaki : The use of transgenic non-human primate in biomedical science. 2011 KALAS Winter Symposium. 18-19 February, 2011. Yong Pyong resort
- 50) 伊藤守：「NOG マウスの紹介」 JST 安全性試験研究・研究班運営会議講演。2011年3月30日。

Ⅷ．学術集会

A. 特別セミナー・講演会

- [2010年6月17日] 廣橋説雄 国立がんセンター名誉総長
ヒトがんの浸潤と転移ー上皮の間葉化の視点からー
- [2010年9月30日] 鳥居 隆三 滋賀医科大学・動物生命科学研究センター)
再生医療研究に果たすサルの役割
- [2010年12月2日] 河上裕 慶應義塾大学医学部 先端医科学研究所 細胞情報研究部門
ヒトにおけるがん細胞と免疫系の相互作用の解明：効果的な免疫療法の開発を目指して
- [2010年3月23日] 岩田 岳 独立行政法人国立病院機構東京医療センター 臨床(感覚器)
センター分子細胞生物学研究部
霊長類を用いた眼疾患の基礎研究

B. 第4回 In vivo 実験医学シンポジウム「in vivo 実験医学の今後の展望」

インビボ実験医学をテーマとしたシリーズ第4回目となる公開シンポジウムが、世話人である理化学研究所の御子柴克彦先生のもと、2011年2月23日 学士会館（東京）にて開催し、200名近い参加者を得た。

C. 所内研究発表会

- [2010年6月25日] (実験動物研究部)
伊藤亮治：CD4 または CD8T 細胞によって誘導される xeno-GVHD の病態
片野いくみ：ヒトインターロイキン-2 トランスジェニック NOG マウスを用いたヒト化マウス
- [2010年8月5日] (バイオメディカル研究部・病理病態研究部)
樋口裕一郎：ES, iPS 細胞を用いた膵臓分化誘導研究の概要
- [2010年9月16日] (試験サービス事業部・マーマセット研究部)
篠原 晴香：ICLAS モニタリングセンターにおける染色体検査の現状
野津量子、植野昌未、井上貴史：「わかもと」のコモンマーマセット下痢症に対する
予防効果の検討
- [2010年10月27日] (マーマセット研究部・応用発生学研究部)
前田拓志：パーキンソン病モデルトランスジェニックマーマセットについての現況報告
富岡 郁夫：マーマセット人工多能性幹 (iPS) 細胞の樹立
- [2010年11月25日] (動物資源管理部)
上迫 努：BALB/c 系統の受精卵採取および個体復元の改善
松岡 義幸：NOG/Jic マウスの生産と供給の紹介
水澤 卓馬：BALB/cA-RAG2KO. IL-2RgKO. nu マウスの育成経過
- [2010年12月16日] (基盤技術研究センター)
斉藤宗雄：基盤技術研究センターについて
今井都泰：ビニールアイソレーターの開発・改良
日置恭司：AET(Animal Experimentation Technologist)セミナー
- [2011年1月20日] (バイオメディカル研究部・by 病理病態研究部)
小牧裕司：MRI によるニューロイメージング解析

[2011年2月17日] (試験サービス事業部)

堤秀樹：rasH2 マウスを用いた短期発がん性試験の現状

浦野浩司：rasH2 マウスを用いた超短期皮膚二段階発がん性試験法開発の試み

[2011年3月23日] (マーモセット研究部)

安東潔：なぜ、マーモセットの認知機能を測定するのか？？そもそも認知機能とはなにか？？

D. 所内教育研修セミナー

- ・2010年 4月1日：新人研修(基盤技術研究センター)
- ・2010年 4月20日～23日：新人研修(基盤技術研究センター)
- ・2010年 4月24日～2011年3月12日：動物実験技術習得講座(基盤技術研究センター)
- ・2010年 5月24日：放射線作業従事者教育訓練(放射線委員会)
- ・2010年 7月9日～10日：日本実験動物協会モニタリング技術研修会(ICLASモニタリングセンター)
- ・2010年11月11日：出荷教育訓練 (動物資源管理部)
- ・2010年12月17日：出荷教育訓練 (動物資源管理部)
- ・2011年 3月18日：遺伝子組換え動物の取扱いに関する教育訓練「遺伝子組換え生物の使用等の規制による生物の多様性の確保に関する法律 (カルタヘナ法)」-2004年2月19日施行-の主旨とその適用範囲を業務担当者及び関係者に説明 (遺伝子組換え実験安全委員会)
- ・2011年 3月18日：動物の愛護及び管理に関する教育訓練「動物の愛護及び管理に関する法律」-動愛法 2006年6月施行-に基づく「研究機関等における動物実験等の実施に関する基本指針」-2006年 6月告示-の主旨とその適用範囲を業務担当者及び関係者に説明(動物実験委員会)

E. AETセミナー「動物実験技術」習得講座

[2010年 4月24日]

- ・高垣善男：動物実験のための科学と技術の教育
- ・斉藤宗雄：適正な実験動物/実験動物の開発改良

[2010年 5月22日]

- ・服部裕二：適正な動物実験
- ・伊藤豊志雄：動物実験の飼育管理に係る法律
- ・末水洋志：遺伝子組換え動物の取り扱いに係る法律

[2010年 6月19日]

- ・伊藤豊志雄：なぜ動物実験が成立するのか/実験動物の一般生理
- ・日置恭司：育種と繁殖

[2010年 7月17日]

- ・日置恭司：実験動物(マウス・ラット)の特性と飼育器材/飼料の与え方
- ・堤 秀樹：実験動物(イヌ・ネコ・ブタ・サルその他)の特性と飼育器材
- ・今井都泰：実験動物の飼育装置および設備の管理

[2010年 8月21日]

- ・小倉智幸：実験動物(マウス・ラット)の飼育管理

- ・日置恭司：無菌動物(マウス・ラット)の飼育管理
 - ・井上貴史：実験動物(マーモセット、他サル類)の特性と飼育器材
- [2010年 9月 18日]
- ・浦野浩司、町田一彦：実験動物と動物実験/動物実験の基本操作(講義)
- [2010年 10月 16日]
- ・浦野浩司、町田一彦：動物実験の基本操作「実技-1」
- [2010年 11月 20日]
- ・浦野浩司、町田一彦：動物実験の基本操作「実技-2」
- [2010年 12月 11日]
- ・伊藤豊志雄：異常動物への対応/微生物モニタリング
 - ・上迫 努：感染症マウスの微生物的清浄化(微生物クリーニング)
- [2011年 1月 15日]
- ・林元 展人：微生物モニタリング
 - ・富澤 政史：遺伝モニタリング
- [2011年 2月 12日]
- ・伊藤 守：遺伝子操作動物作製の基礎と歴史
 - ・江藤智生：生殖工学・発生工学「その周辺技術」
 - ・末水洋志：ヒト疾患モデル動物
- [2011年 3月 12日]
- ・玉置憲一：基礎研究からベットサイドへの架け橋

F. ICLAS モニタリングセンター運営検討委員会

以下のの日に開催した。

日時：平成 23 年 4 月 8 日 14：30～ 場所：学士会館

(3 月開催予定であったが大震災の影響のため、4 月に延期した)

推進委員：高垣善男先生、森脇和郎先生

運営検討委員：

(社)日本実験動物学会	小倉淳郎先生、	山田靖子先生
(社)日本実験動物協会	高木博義先生、	日柳政彦先生
日本実験動物協同組合	團迫 勉先生、	矢澤 肇先生
国立大学法人動物実験施設協議会	小野悦郎先生、	越本知大先生
日本実験動物技術者協会	小木曾昇先生	
日本製薬工業会	久田 茂先生	

センター員：伊藤豊以下 14 名

IX. 共同研究（公的研究費による研究）

1. 実験動物の品質管理等に係る基礎的研究〔文部科学省科学研究費補助金 - 特定奨励費〕

実施期間 自平成 22 年 4 月 至自平成 23 年 3 月

研究代表者 野村達次

1) 分担課題 遺伝的モニタリングに関する研究

研究分担者 高倉 彰

2) 分担課題 微生物モニタリングに関する研究

研究分担者 林元展人

3) 分担課題 規格化実験動物系統の確立と維持に関する研究

研究分担者 小倉智幸

4) 分担課題 実験動物の保存と作製に関する研究

研究分担者 江藤智生

5) 分担課題 遺伝子改変動物に関する研究

研究分担者 伊藤守

2. ヒト化 NOG マウスを基盤とした個別医療に対応するヒト型実験システムの開発〔独立行政法人日本学術振興会科学研究費補助金 - 基盤研究 (S)〕

課題番号 22220007

実施期間 自平成 22 年 5 月 至平成 27 年 3 月

研究代表者 伊藤 守

連携研究者 安藤 潔（東海大・医）、小柳義夫（京都大・ウイルス研）、高橋武司（東北大・医）、亀谷美恵（東海大・医）

3. ヒューマナイズドがん転移モデルを用いたヒトがん転移機構の解明〔独立行政法人日本学術振興会科学研究費補助金 - 基盤研究 (A)〕

課題番号 21240042

実施期間 自平成 21 年 4 月 至平成 24 年 3 月

研究代表者 末水 洋志

4. 標的遺伝子ノックダウンによる霊長類ヒト疾患モデルの作出〔独立行政法人日本学術振興会科学研究費補助金 - 基盤研究 (A)〕

課題番号 22240053

実施期間 自平成 22 年 4 月 至平成 27 年 3 月

研究代表者 佐々木 えりか

5. 哺乳類の雌雄生みわけに関する新技法の開発に関する研究〔独立行政法人日本学術振興会科学研究費補助金 - 挑戦的萌芽研究〕

課題番号 22650095

実施期間 自平成 22 年 4 月 至平成 24 年 3 月

研究代表者 橋本 晴夫

6. ヒト免疫系を有するヒト型抗体産生マウスの開発〔文部科学省科学研究費補助金 - 若手研究 (B)〕
- 課題番号 22700458
 実施期間 自平成 22 年 4 月 至平成 25 年 3 月
 研究代表者 伊 藤 亮 治
7. q - s p a c e i m a g i n g を用いた髄鞘の可視化〔文部科学省科学研究費補助金 - 若手研究(B)〕
- 課題番号 22791230
 実施期間 自平成 22 年 4 月 至平成 24 年 3 月
 研究代表者 疋 島 啓 吾
8. 脊髄損傷メカニズム解明のための f u n c t i o n a l M R I の開発〔文部科学省科学研究費補助金 - 若手研究 (B)〕
- 課題番号 22791410
 実施期間 自平成 22 年 4 月 至平成 25 年 3 月
 研究代表者 小 牧 裕 司
9. 再生医療実現化を目指したヒト iPS 細胞・ES 細胞・体性幹細胞研究拠点 (疾患モデル動物を用いた幹細胞治療の安全性と有効性の検討)〔文部科学省科学技術試験研究委託事業〕
- 実施期間 平成 22 年 4 月 至平成 23 年 3 月
 業務主任者 伊 藤 豊志雄
 担当責任者 伊 藤 豊志雄、佐々木えりか、末水洋志
10. 先端的遺伝子導入・改変技術による脳科学研究のための独創的霊長類モデルの開発と応用 (コモンマーモセットの遺伝子改変技術の基盤整備)〔文部科学省科学技術試験研究委託事業〕
- 実施期間 平成 22 年 4 月 至平成 23 年 3 月
 業務主任者 佐々木 えりか
 担当責任者 佐々木 えりか
11. 健康研究成果の実用化加速のための研究・開発システム関連の隘路解消を支援するプログラム (iPS 由来再生心筋細胞移植の安全性評価)〔文部科学省科学技術総合推進費補助金〕
- 実施期間 平成 22 年 7 月 至平成 23 年 3 月
 担当責任者 伊 藤 豊志雄
12. 先端研究助成基金助成金-最先端研究開発支援プログラム「心を生み出す神経基盤の遺伝学的解析の戦略的展開」〔独立行政法人日本学術振興会〕
- 実施期間 平成 22 年 3 月 至平成 26 年 3 月
 サブテームリーダー 佐々木 えりか
13. 最先端研究開発戦略的強化費補助金(最先端研究開発支援プログラム加速・強化事業)「心を生み出す神経基盤の遺伝学的解析の戦略的展開」〔独立行政法人日本学術振興会〕
- 実施期間 平成 22 年 4 月 至平成 23 年 3 月
 サブテームリーダー 佐々木 えりか

14. コモンマーモセットの発生工学的技術および疾患モデルの開発〔独立行政法人科学技術振興機構-戦略的創造研究推進事業-発展研究（SORST）〕
- 実施期間 平成22年4月 至平成22年10月
- 研究担当者 伊藤 豊志雄
15. iPS細胞を用いたヒト疾患モデルマーモセット作製法の確立〔独立行政法人科学技術振興機構-戦略的創造研究推進事業個人型研究（さきがけタイプ）〕
- 実施期間 平成22年4月 至平成23年3月
- 研究担当者 佐々木えりか
16. がん研究分野の特性等を踏まえた支援活動〔文部科学省科学研究費補助金 - 新学術領域研究〕
- 課題番号 221S0001
- 実施期間 平成22年4月 至平成23年3月
- 研究代表者 中村 祐輔（東京大・医科学研究所）
- 研究分担者 高倉 彰
- 分担課題 微生物学的モニタリング
17. マウス病原性ヘリコバクターの特異的抗原検出診断法の開発〔独立行政法人日本学術振興会科学研究費補助金 - 基盤研究（B）〕
- 課題番号 20300143
- 実施期間 自平成22年4月 至平成23年3月
- 研究代表者 國田 智（筑波大・院）
- 研究分担者 林元展人
- 分担課題 分離株および自然感染材料を用いた評価
18. インスリンシグナリング遺伝子を用いた犬猫の肥満・糖尿病の早期診断法の開発〔独立行政法人日本学術振興会科学研究費補助金 - 基盤研究（B）〕
- 課題番号 21380195
- 実施期間 自平成22年4月 至平成23年3月
- 研究代表者 新井 敏郎（日本獣医生命科学大学・獣医）
- 研究分担者 橋本晴夫
- 分担課題 遺伝子ノックアウトマウスの作成
19. アパタイトナノキャリアを用いた胃癌のマイクロRNA治療の開発〔独立行政法人日本学術振興会科学研究費補助金 - 基盤研究（B）〕
- 課題番号 22300169
- 実施期間 自平成22年4月 至平成23年3月
- 研究代表者 鈴木 秀和（慶応義塾大・医）
- 研究分担者 大西保行
- 分担課題 NOGマウスモデルの検討
20. 筋ジストロフィーに対するトランスレーショナル・リサーチ〔独立行政法人国立精神・神経医療研究センター・精神・神経疾患研究開発費〕

課題番号 22-5
 実施期間 平成22年8月 至平成23年3月
 主任研究者 武田伸一（独立行政法人国立精神・神経医療研究センター・神経研究所）
 研究分担者 保田昌彦
 分担課題 筋ジストロフィー関連モデル動物の生産供給システムの検討

21. 腰痛の診断、治療法に関する研究：痛み・しびれの可視化技術の確立並びに、MRIを用いた脊髄投射路及び末梢神経イメージング法の確立〔厚生労働省科学研究費補助金・長寿科学総合研究事業〕

課題番号 H21-長寿-一般-009
 実施期間 平成22年4月 至平成23年3月
 研究代表者 戸山芳昭（慶応義塾大・医）
 研究分担者 玉置憲一
 分担課題 サル脊髄投射路の可視化

22. 脊柱靭帯骨化症に関する調査研究〔厚生労働省科学研究費補助金・難治性疾患克服研究事業〕

課題番号 H20-難治-一般-032
 実施期間 平成22年4月 至平成23年3月
 研究代表者 戸山芳昭（慶応義塾大・医）
 研究分担者 江藤智生
 分担課題 twy/twy マウスの管理と供給

23. 成育医療における難治性ウイルス感染症に対する予防・診断・治療法の開発と臨床応用〔独立行政法人国立成育医療研究センター研究所・成育医療研究開発費〕

課題番号 22指-9
 実施期間 平成22年8月 至平成23年3月
 研究代表者 藤原成悦（独立行政法人国立成育医療研究センター研究所・母児感染研究部）
 研究分担者 伊藤守
 分担課題 ウイルス感染モデルへの応用を目指したヒト化マウスの作成方法の改良

24. 新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業委託事業-実用技術22019牛乳房炎検査システムコンソーシアム（新たな牛乳房炎検査システムの開発と乳房炎防除プログラム実践促進モデルの確立）〔独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構〕

実施期間 平成22年9月 至平成23年3月
 業務執行組合員 堀江武（独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構・理事長）
 組合員 野村達次

總務報告

1. 役員に関する事項

理事長	野村達次	研究所所長、医学博士
専務理事	野村龍太	研究所副所長
理事	玉置憲一	東海大学医学部名誉教授、医学博士
〃	西村俊彦	スタンフォード大学准教授、医学博士
〃	名本公洲	元大蔵省代表日本銀行政策委員、弁護士
監事	野村生次	株式会社野村事務所代表取締役社長
〃	大澤敏男	元川崎北税務署長、税理士
評議員	永田 宏	元三井物産株式会社副社長
〃	齊藤宗雄	研究所参与、日本クレア(株)取締役
〃	菅谷英一	愛英堂診療所所長、医学博士
〃	山本 慧	元万有生命科学振興国際交流財団理事長、医学博士
〃	上山義人	元東海大学医学部教授、医学博士
〃	北村 昭	日本クレア(株)監査役
〃	高垣善男	元中外製薬(株)取締役
〃	伊藤豊志雄	研究所研究部門長、獣医学博士
学術顧問	合田 朗	北里大学名誉教授、医学博士
〃	林 裕造	元国立衛生試験場安全性評価センター長、医学博士
〃	石成公成	Prof. The Johns Hopkins University. (retired)
〃	L. G. Goodwin	M.D., Director of Science, the Zoological Society, England

2. 役員会に関する事項

評議員会・理事会

平成22年4月30日に本館3階会議室において臨時評議員会が開催された。以下の議案が討議され承認された。

- 第1号議案：定款変更（案）の承認に関する件
- 第2号議案：評議員および役員の報酬ならびに費用に関する規程（案）の承認に関する件
- 第3号議案：最初の評議員ならびに理事・監事就任予定者選任に関する件
- 第4号議案：公益目的事業区分に関する件
- 第5号議案：収支相償、内部留保、公益目的事業比率に関する件

平成22年4月30日に本館3階会議室において臨時理事会が開催された。以下の議案が討議され承認された。

- 第1号議案：定款変更（案）の承認に関する件
- 第2号議案：評議員および役員の報酬ならびに費用に関する規程（案）の承認に関する件
- 第3号議案：最初の評議員ならびに理事・監事就任予定者選任に関する件
- 第4号議案：公益目的事業区分に関する件

第5号議案：収支相償、内部留保、公益目的事業比率に関する件

平成22年6月22日に本館3階会議室において平成22年度前期定例評議員会が開催された。以下の議案が討議され承認された。

第1号議案：平成21年度事業報告書（案）の承認に関する件

第2号議案：平成21年度決算報告書（案）の承認に関する件

第3号議案：役員報酬ならびに費用に関する内規（案）の承認に関する件

第4号議案：特定公益増進法人等であることの承認申請書（更新）提出承認に関する件

その他（報告事項）

1. 神奈川口移転検討ならびに慶應義塾大学医学部先端医療開発プロジェクトの件
2. 公益財団法人認定申請の件
4. ジャクソン研究所への提訴の件

平成22年6月22日に本館3階会議室において第96回定例理事会が開催された。以下の議案が討議され承認された。

第1号議案：平成21年度事業報告書（案）の承認に関する件

第2号議案：平成21年度決算報告書（案）の承認に関する件

第3号議案：役員報酬ならびに費用に関する内規（案）の承認に関する件

第4号議案：特定公益増進法人等であることの承認申請書（更新）提出承認に関する件

その他（報告事項）

1. 神奈川口移転検討ならびに慶應義塾大学医学部先端医療開発プロジェクトの件
2. 公益財団法人認定申請の件
4. ジャクソン研究所への提訴の件

平成22年9月27日に書面臨時理事会が開催された。以下の議案が討議され承認された。

第1号議案：神奈川口新施設建設に伴い横浜銀行より20.82億円の融資与信枠を得ること、その内1億円を9月に借入れることの承認の件

第2号議案：1号議案実行のための横浜銀行に対し、野川の土地建物への担保設定を行うこと、ならびに神奈川口新施設への担保設定の承認の件

平成23年3月23日に本館3階会議室において平成22年度後期定例評議員会が開催された。以下の議案が討議され承認された。

第1号議案：平成23年度事業計画書（案）の承認に関する件

第2号議案：平成23年度収支予算書（案）の承認に関する件

その他（報告事項）

1. 神奈川口移転プロジェクトに関する件
2. 公益財団法人移行申請に関する件
3. NOGマウス訴訟に関する件

平成 23 年 3 月 23 日に本館 3 館会議室において第 97 回定例理事会が開催された。以下の議案が討議され承認された。

第 1 号議案：平成 23 年度事業計画書（案）の承認に関する件

第 2 号議案：平成 23 年度収支予算書（案）の承認に関する件

その他（報告事項）

1. 神奈川口移転プロジェクトに関する件
2. 公益財団法人移行申請に関する件
3. NOG マウス訴訟に関する件

3. 委員会活動

機関内審査委員会として、下記の 6 委員会が活動した。

- 1) 遺伝子組換え実験安全委員会
- 2) 動物実験委員会
- 3) 放射線管理委員会
- 4) 科学研究費補助金内部監査委員
- 5) 研究倫理委員会
- 6) 生命倫理委員会

その他機関内委員会として、消防委員会、健康管理委員会、所内ネットワーク委員会、コンプライアンス委員会ならびにアドバイザー委員会が設置され、活動した。

4. 海外出張

- 1) 伊藤守は、Massachusetts・Washington D.C.・North Carolina・California にて、製薬会社への NOG マウスの紹介のため、2010 年 4 月 4 日～4 月 10 日まで米国へ出張。
- 2) 佐々木えりか・篠原晴香は、Seattle にて、4th International Conference on Primate Genomics 参加のため、2010 年 4 月 13 日～17 日まで米国へ出張。
- 3) 水島友子は、Washington D.C. にて、AACR Annual Meeting 2010 に参加のため、2010 年 4 月 17 日～4 月 21 日まで米国へ出張。
- 4) 疋島啓吾・小牧裕司は、ストックホルム国際会議場にて、第 18 回国際磁気共鳴医学会大会参加のため、2010 年 4 月 29 日～5 月 7 日までスウェーデンへ出張。
- 5) 副所長野村龍太は、ソウルにて、三井物産・東亜製薬役員との面談・韓国三井物産社長との打合せのため、2010 年 5 月 16 日～5 月 17 日まで韓国へ出張。
- 6) 副所長野村龍太は、New York にて、NOG 訴訟打合せ他のため、2010 年 5 月 30 日～6 月 6 日まで米国へ出張。
- 7) 副所長野村龍太・大西保行は、シンガポールにて、PLR STC 出席・取締役会出席他のため、2010 年 6 月 9 日～6 月 13 日までシンガポールへ出張。
- 8) 江藤智生・上迫努・林元展人は、ヘルシンキにて、FALASA 2010 参加・発表のため、2010 年 6 月 12 日～6 月 20 日までフィンランドへ出張。
- 9) 末水洋志・佐々木えりか・富岡郁夫は、サンフランシスコにて、第 8 回国際幹細胞学会参加のため、2010 年 6 月 15 日～6 月 21 日まで米国へ出張。
- 10) 浦野浩司は、バルセルナにて、第 12 回ヨーロッパ毒性病理学会出席・発表のため、2010 年 7 月 19 日～7 月 26 日までスペインへ出張。

- 11) 高橋司・富岡郁夫は、Midwest Airlines Center にて、第 43 回国際繁殖生物学会での発表のため、2010 年 7 月 29 日～8 月 5 日まで米国へ出張。
- 12) 副所長野村龍太は、上海にて、JOINN Laboratory との研究打合せのため、2010 年 8 月 8 日～8 月 10 日まで中国へ出張。
- 13) 副所長野村龍太は、プサンにて、東亜製薬への研究、技術紹介のため、2010 年 8 月 14 日～8 月 17 日まで韓国へ出張。
- 14) 佐々木えりか、高橋司、富岡郁夫は、昆明にて、4th International Symposium on Primate Research 2010 において発表のため、2010 年 8 月 15 日～8 月 19 日まで中国へ出張。
- 15) 大西保行は、プサンにて、東亜製薬、KRIBB への研究、技術紹介のため、2010 年 8 月 16 日～8 月 18 日まで韓国へ出張。
- 16) 伊藤守は、プサンにて、KRIBB での NOG セミナー、KALAS 出席のため、2010 年 8 月 17 日～8 月 20 日まで韓国へ出張。
- 17) 副所長野村龍太は、シンガポール、上海にて、PLR 現地との打合わせ、JOINN との打合わせのため、2010 年 9 月 13 日～9 月 15 日までシンガポール、中国へ出張。
- 18) 井上貴史は、San Antonio, Bethesda にて、South West National Primate Research Center のセミナー出席、視察、Neotropical Primates in Biomedical Research Workshop 出席のため、2010 年 9 月 19 日～9 月 25 日まで米国へ出張。
- 19) 佐々木えりかは、San Antonio, Bethesda にて、University of Texas Health Science Center の視察、講演、New World Monkey Workshop at NIH での講演、情報収集のため、2010 年 9 月 19 日～9 月 25 日まで米国へ出張。
- 20) 林元展人は、青海大学にて、エキノコックス野外調査のため、2010 年 9 月 22 日～10 月 2 日まで中国へ出張。
- 21) 伊藤亮治は、Lugano にて、11th International Symposium on Dendritic Cells での発表、聴講のため、2010 年 9 月 25 日～10 月 1 日までスイスへ出張。
- 22) 富岡郁夫は、ミュンスターにて、第 18 回国際霊長類シンポジウムにて講演のため、2010 年 10 月 4 日～10 月 7 日までドイツへ出張。
- 23) 副所長野村龍太は、アトランタ、ニューヨーク、サンフランシスコにて、Taconic Meeting、NOG 訴訟に関わる弁護士との面談、IVSI との打合せのため、2010 年 10 月 9 日～10 月 16 日まで米国へ出張。
- 24) 林元展人は、アトランタにて、The 61th AALAS National Meeting でのパネルディスカッション参加のため、2010 年 10 月 9 日～10 月 16 日まで米国へ出張。
- 25) 所長野村達次、副所長野村龍太は、ソウルにて、東亜製薬訪問、研究打合せのため、2010 年 10 月 17 日～10 月 19 日まで韓国へ出張。
- 26) 副所長野村龍太は、上海にて、JOINN 社との打合せのため、2010 年 10 月 24 日～10 月 27 日まで中国へ出張。
- 27) 林元展人は、タイペイにて、The 4th AFLAS Congress Meeting での講演のため、2010 年 11 月 7 日～11 月 14 日まで台湾へ出張。
- 28) 佐々木えりかは、タイペイにて、The 4th AFLAS Congress Meeting での発表のため、2010 年 11 月 8 日～11 月 11 日まで台湾へ出張。
- 29) 安東潔は、カリフォルニアにて、Society for Neuroscience 2010 での発表のため、2010 年 11 月 12 日～11 月 18 日まで米国へ出張。

- 30) 佐々木えりかは、ゲッチンゲンにて、EUPRIM - Net II Kick Off Meeting に出席のため、2010年11月22日～11月25日までドイツへ出張。
- 31) 副所長野村龍太は、パリ、コペンハーゲン、ケルン、ジュネーブ、ミラノにて、Mitsui Benelux, Mitsui Itary との打合せ、Taconic Artemis, Taconic Europe との打合せ、Oncodesign との打合せ、WHO/UNICEF Consultation に出席のため、2010年11月27日～12月5日までフランス、デンマーク、ドイツ、スイス、イタリアへ出張。
- 32) 理事玉置憲一は、シンガポールにて、PLR STC に出席のため、2010年12月15日～12月17日までシンガポールへ出張。
- 33) 副所長野村龍太は、シンガポールにて、PLR STC に出席、EDB との打合せのため、2010年12月15日～12月17日までシンガポールへ出張。
- 34) 副所長野村龍太は、上海にて、JOINN Laboratory との研究打合せのため、2011年1月18日～1月20日まで中国へ出張。
- 35) 林元展人、保田昌彦、小倉智幸は、ICLAS Sub Center (KRIBB) にて、定期交流ならびに情報交換のため、2011年1月20日～1月22日まで大韓民国へ出張。
- 36) 伊藤守は、Taconic Artemis、Oncodesign にて、研究、業務打合せのため、2011年1月24日～1月29日までフランス、ドイツへ出張。
- 37) 林元展人は、Mahidol 大学動物実験施設にて、共同研究打合せのため、2011年1月27日～1月30日までタイへ出張。
- 38) 日置恭司は、Taconic Farms Inc にて、NOG マウスの生産施設の確認のため、2011年2月2日～2月4日まで米国へ出張。
- 39) 大西保行は、IVSI、Arnold Porter LLP にて、業務打合せ、知財打合せ、訪問のため、2011年2月9日～2月13日まで米国へ出張。
- 40) 副所長野村龍太は、ソウルにて、東亜製薬金社長との面談のため、2011年2月14日～2月14日まで大韓民国へ出張。
- 41) 佐々木えりか、高橋司、富岡郁夫は、Yongpyong resort にて、2011 KALAS Winter Symposium での研究発表、講演のため、2011年2月16日～2月19日まで大韓民国へ出張。
- 42) 堤秀樹、浦野浩司は、ワシントン D.C. にて、第 50 回 SOT 参加、発表、クライアントとの打合せ等のため、2011年3月6日～3月11日まで米国へ出張。
- 43) 副所長野村龍太は、New York、Rio de Janeiro、Milano にて、特許打合せ、Vale 社との研究打合せ、欧州三井物産、Salce 社、Taconic 社との打合せのため、2011年3月30日～4月6日まで米国、ブラジル、イタリアへ出張。

5. 教育・研修の受託

- 1) 群馬大学大学院医学系研究科神経生理の片貝達也氏は、2010年4月5日～4月11日までマーモセット研究部にて研修。
- 2) 群馬大学大学院医学系研究科神経生理の村上真津香氏は、2010年4月5日～4月25日までマーモセット研究部にて研修。
- 3) 自然科学研究機構基礎生物学研究所の竹田悠太氏は、2010年5月6日～6月4日までマーモセット研究部にて研修。
- 4) 群馬大学大学院医学系研究科神経生理の村上真津香氏は、2010年7月20日～8月6日まで応用発生学研究部にて研修。

- 5) 群馬大学院医学系研究科神経生理の松崎泰教氏は、2010年7月20日～8月6日まで応用発生学研究部にて研修。
- 6) 株式会社ジェー・エー・シーの太田亜矢氏は、2010年8月9日～8月13日まで基盤技術研究センターにて研修。
- 7) 福山大学生命工学部生物工学科の竹本有希氏は、2010年8月23日～9月3日まで動物資源管理部生殖工学研究室にて研修。
- 8) 独立行政法人理化学研究所脳科学総合研究センターの新美君枝氏は、2010年8月23日～9月10日まで応用発生学研究部にて研修。
- 9) 株式会社ジェー・エー・シーの内さやか氏は、2010年9月1日～9月7日まで基盤技術研究センターにて研修。
- 10) 株式会社ジェー・エー・シーの田中皓治氏は、2010年9月29日～10月5日まで基盤技術研究センターにて研修。
- 11) 株式会社ジェー・エー・シーの小野武弘氏は、2010年10月6日～10月13日まで基盤技術研究センターにて研修。
- 12) 株式会社ジェー・エー・シーの脇若尊信氏は、2010年10月6日～10月13日まで基盤技術研究センターにて研修。
- 13) 株式会社サンプラネットの中山次男氏は、2011年1月17日～1月28日までマーモセット研究部にて研修。
- 14) 東京農業大学の坂下陽彦氏は、2011年2月28日～3月4日まで基盤技術研究センターにて研修。

6. 見学・来所（国内・海外からの来訪者）

a. 国内

- 1) 2010年7月30日 慶應義塾大学の山崎由美子氏他2名が来所、マーモセット研究部・画像解析研究室を見学。
- 2) 2010年8月27日 放射線医学総合研究所の齋藤茂芳氏が来所、画像解析研究室を見学。
- 3) 2010年10月20日 理化学研究所免疫センターの長谷川孝徳氏他4名が来所、飼育技術研究室を見学。
- 4) 2010年11月9日 東京大学医科学研究所の田亜敏氏が来所、マーモセット研究部を見学。
- 5) 2011年1月19日 株式会社JTクリエティブサービスの高橋明之氏が来所、試験サービス事業部微生物検査部を見学

b. 海外からの来訪者

なし

7. 留学（長期研修）

a. 国内留学（研修）

なし

b. 国内留学（研修）受け入れ

- 1) 株式会社ジェー・エー・シーの小野武弘氏は、2010年10月14日～2011年2月28日まで動物資源管理部にて研修。
- 2) 株式会社ジェー・エー・シーの脇若尊信氏は、2010年10月14日～2011年2月28日まで動物資源管理部にて研修。

- 3) 信州大学農学部の渡辺晴陽氏は、2010年11月8日～2011年2月28日まで応用発生学研究部にて研修。
- 4) 早稲田桔梗堂鍼灸院の海老根妙子氏は、2010年12月1日～2011年3月31日まで動物資源管理部にて研修。

c. 海外留学（研修）

なし

d. 海外からの留学（研修）受け入れ

なし

8. 認可・許可・承認に関する事項

道路占用継続許可（川崎市長）平成22年4月9日

- ・送油管 平成22年4月1日から平成24年3月31日まで（22川崎市指令 宮管 第12132号）
- ・給排水管 平成22年4月1日から平成25年3月31日まで（22川崎市指令 建路 第12059号）

公益認定後の名称変更届出

- ・公共職業安定所、年金事務所、労働基準監督署（4月14日手続き）
- ・神奈川県庁 麻薬・向精神薬・覚せい剤（4月26日手続き）

9. 学位取得

なし

10. 契約に関する事項

なし

11. 寄附金に関する事項

特定公益増進法人に対する寄付金として受領したもの

・維持会員会費	6件	10,500千円
・神奈川口建物	31件	67,480千円
・基盤整備	1件	5,000千円

12. 主務官庁の指示に関する事項

平成23年3月25日、内閣総理大臣より一般財団法人及び一般財団法人に関する法律及び公益財団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律（平成18年法律第50号）第44条の規定に基づき公益財団法人として認定される

13. 特許権に関する事項

以下の特許の査定を受けた。

登録年月日：平成23年1月14日

登録番号：特許4663634

発明の名称：腫瘍転移の分析のための動物モデル。

発明者：中村雅登 大西保行

出願者：財団法人実験動物中央研究所

14. 叙勲・受賞に関する事項

- 平成22年12月12～14日、橋本晴夫研究員は、第57回日本実験動物学会総会において、糖尿病トランスレーショナル研究支援のためのIRS-2ノックアウトマウスの系統化と特性検索に関する研究に対し、日本実験動物学会奨励賞を受賞した。
- 平成23年1月4日、疋島啓吾研究員は核磁気共鳴装置を利用した画像解析分野に於いてマウス脳の解析、マーモセット標準脳の作製とパーキンソン病モデル評価への応用並びにマーモセット脊髄損傷モデル解析等の研究成果を内外に公表したことに対し、所内表彰された。
- 平成23年1月4日、富岡郁夫他協同研究者一同は従来困難であったヒト・マウス以外のiPS細胞作製の分野において既知の誘入導入因子に新導入別途導入因子を追加することによりそれが可能となる事を世界で初めて見出しこの方法で数多くのマーモセットiPS細胞を樹立したことに対し、所内表彰された。

15. 職員数

	男	女	計
役員	15	0	15
研究職	41	19	60
事務職	12	7	19
その他	0	0	0
計	68	26	84

	常勤	非常勤	計
役員	6	9	15
研究職	41	19	60
事務職	18	1	19
その他	0	0	0
計	55	29	84

16. その他

・外部評価委員会（アドバイザー・コミティー）

研究所は、所長の諮問に応じ公益・学術分野を含む研究所諸活動に対する助言を得るため、学識経験者から構成される委員を任命し、財団法人実験動物中央研究所外部評価委員会、通称アドバイザー・コミティーを設置し大所高所からの指導を受けている。本年度は当財団の公益財団法人への移行について等の助言を得た。平成22年度の委員は下記の通りである。

- 相澤 慎一（独立行政法人理化学研究所 発生・再生科学総合研究センター
ボディプラン研究グループ グループディレクター）
- 金澤 一郎（日本学術会議会長、科学技術総合会議委員）
- 中西 重忠（財団法人大阪バイオサイエンス研究所 副理事長・所長）
- 垣生 園子（順天堂大学医学部免疫学講座 客員教授）
- 林 裕造（財団法人日本健康栄養食品協会 理事長）

- 半田 宏 (東京工業大学大学院生命理工学研究科 教授)
 御子柴克彦 (独立行政法人理化学研究所 脳科学総合研究センター
 発生神経生物研究チーム シニアチームリーダー)
 山本 直樹 (National University Health System, Singapore Professor)

・ 神奈川口新施設竣工

平成23年2月に財団法人実験動物中央研究所の新研究施設が、羽田空港の多摩川を挟んだ対岸川崎市川崎区殿町3丁目に竣工した。平成22年4月に着工以来10カ月の工期で計画通りに無事完成に至る。経済産業省、川崎市、日本宝くじ協会から補助金や助成金を得て全面的な支援を受ける。それゆえ施設の部分を「実中研 再生医療・新薬開発センター」や「多摩川サイエンスプラザ」と呼称することもある。川崎市が神奈川県と横浜市と組んで押し進める「国際戦略総合特区構想」すなわち環境ライフサイエンス研究開発拠点での進出第1号となった。

平成23年度には設備設置を完了し、川崎市宮前区野川での事業の大半を新施設へ移転する予定である。脳科学やがん研究に加え、脊髄損傷や脳梗塞など中枢神経系の再生医療実現のための研究を慶應義塾大学医学部と連携して進めるほか、諸大学、製薬会社、研究機関、ベンチャー企業等とも共同利用施設の利用を通じ先端研究を推進する。3月31日付 未定。

建築の概要

- ・所在地 川崎市川崎区殿町3丁目25番12号
- ・敷地面積 6,000.01 m²
- ・建築面積 約2,750 m²
- ・延べ面積 約11,500 m²
- ・構造階数 鉄骨造、4階建て一部5階建

経緯：

- ・平成22年4月1日 財団法人 日本宝くじ協会の公益法人助成事業として1.6億円の交付決定。対象：(仮称) 多摩川サイエンスプラザ
- ・平成22年4月16日 ○川崎市議会にて臨海部殿町3丁目地区で環境技術ライフサイエンス分野の研究開発拠点形成に向け中核施設整備を目的として、川崎市が独立行政法人都市再生機構より13,000 m²の土地取得等を可決承認
○川崎市と実験動物中央研究所が事業用定期土地賃貸借契約を締結
○(仮称) 再生医療・新薬開発共同研究センターの起工式実施
- ・平成22年4月20日 一般社団法人新エネルギー導入促進協議会より「地域新エネルギー等導入促進事業」に係る交付決定通知書を受領。
- ・平成22年6月14日 川崎市が実験動物中央研究所の殿町新施設の北側の市有地7,000 m²に「産学公民連携研究センター」の事業推進を決定。
- ・平成22年6月22日 定例理事会ならびに定例評議員会において神奈川口新施設建設プロジェクトの建設進捗状況や建設を1期と2期に分けること等を報告
- ・平成22年9月22日 臨時理事会開催。横浜銀行からの融資を得るため与信枠の設定を受けることや、根抵当権を設定することなど同行との取引開始を承認
- ・平成23年2月25日 建物建設工事が完了し第1期工事が竣工。日本宝くじ協会へ助成事業完

了報告書提出

- ・平成 23 年 3 月 10 日 経済産業省関東経済産業局長に整備事業実績報告書 提出。
- ・平成 23 年 3 月 25 日 日本宝くじ協会より助成金 1.68 億円入金
- ・平成 23 年 3 月 29 日 経済産業省より国庫金 12.8 億円を振込受領
- ・平成 23 年 3 月 31 日 一般社団法人新エネルギー導入促進協議会より天然ガスコージェネレーション補助金 45 百万円入金

・その他

- ・平成 22 年 8 月 3 日、小坂樹徳理事は死去された。

(財)実験動物中央研究所維持会員制度

定例会議ならびに学術懇話会

7月28日(水)、東京霞が関の東海大学校友会館において(財)実験動物中央研究所維持会員第29回定例会議ならびに学術懇話会が開催された。プログラムは以下のとおり。

プログラム

第29回定例会議

挨拶	理事長	野村 達次
研究概要報告	学術担当理事	玉置 憲一
事業概要報告	専務理事	野村 龍太
収支報告	総務経理部	齋藤 宗雄

学術懇話会

【特別講演】

「薬剤標的タンパク質から創薬への可能性と課題」

半田 宏先生

(東京工業大学 ソリューション研究機構・大学院生命理工学研究科 教授)

【話題提供】

「微生物検査法の開発・改良の現状」

高倉 彰 (ICLAS モニタリングセンター)

「顕微操作への電動マイクロマニピュレーター技術の応用」

江藤 智生 (動物資源管理部)

【話題提供】

(1) 「新薬の探索と開発における遺伝子操作動物の活用」

TaconicArtemis 社

Prof. Dr. Peter Stadler

【話題提供】

(2) 「維持会員サービス：NOGマウスの無償試用について」

財団法人実験動物中央研究所 事業推進部

大西 保行

= 懇話会 =

維持会員に関する業務

- | | | |
|--------------------|-----|------|
| 1. ヒト悪性腫瘍分与： | 3社 | 8件 |
| 2. 教育研修、見学： | 2社 | 2件 |
| 3. 微生物モニタリング・疾病診断： | 19社 | 441件 |

平成22年度 微生物モニタリング・疾病診断検査内訳

動物種	動物数	血清数	その他	合計
マウス	893	494	226	1,613
ラット	295	314	0	609
ハムスター類	0	0	1	1
モルモット	22	7	1	30
ウサギ	2	21	1	24
その他	0	0	227	227
培養細胞等	—	—	782	782
合計	1,212	836	1,238	3,286

- | | | |
|--------------------|----|-----|
| 4. 遺伝的モニタリング・遺伝検査： | 4社 | 10件 |
|--------------------|----|-----|

平成22年度 遺伝モニタリング・遺伝検査内訳

検査項目	依頼件数	検体数
遺伝モニタリング	4	40
染色体数検査	1	6
遺伝子マッピング	0	0
スピードコンジェニック	5	71
合計	10	117

財団法人 実験動物中央研究所維持会員規約

第一条 (目的)

財団法人実験動物中央研究所(以下、実中研という)は、その事業すなわち、実験動物の開発・改良、動物実験の質的向上、標準化と合理化ならびに臨床医学の発展および新薬の開発に直接結びつくモデル動物の開発等に対する財政的援助を受けることを目的として、実験動物中央研究所維持会員(以下、維持会員という)の制度を設ける。

第二条 (維持会員の資格)

1. 第一条の目的に賛同した法人で、所定の入会手続きを経て実中研理事会の承認を得たものを維持会員とする。
2. 維持会員は年会費を実験動物中央研究所に納入しなければならない。
年会費は1口100万円、1口以上とする。
3. 退会しようとするときは、その旨を実験動物中央研究所理事会に届け出なければならない。

第三条 (維持会員会費の用途)

維持会員会費は、50%を公益目的事業費に、50%を管理費に使用するものとする。ただし、管理費に充当すべき金額について管理費に充ててなお残余があるときは、公益目的事業費に使用することを可とする。

第四条 (維持会員の特典)

維持会員は、実中研から次に定める利益を優先的に享受することができる。

- イ. 実験動物ならび動物実験に関する情報提供
- ロ. 実験動物の飼育管理、動物実験手技などに関するアドバイス
- ハ. 実験動物の遺伝学的、微生物学的品質モニタリングの実施ならびに関連事項についての情報提供
- ニ. 特殊実験動物の分与
- ホ. ヒト悪性腫瘍株の分与
- ヘ. 飼育技術ならびに動物実験手技についての研修
- ト. 研究開発プロジェクトへの共同研究加入
- チ. 定期的研究報告会への参加

第五条 (顧問の嘱託)

1. 実中研は、維持会員制の適正な運営を図るため、寄付行為第25条に基づき、顧問をおく。
2. 実中研理事会は、維持会員制に関する重要事項については顧問に諮り、その意見を尊重しなければならない。

第六条 (維持会の組織)

1. 維持会員は維持会を組織し、毎年1回、定例会議を開催するものとする。
2. 定例会議は、臨時会議とともに実中研理事長が召集し、議長はその都度、会員の互選で選出する。
3. 会議は維持会員制に関する事項を審議し、その意見を実中研理事会に具申することができる。実中研の理事及び第4条に定める顧問は、会議に出席して意見を述べることができる。
4. 実中研理事会は、維持会員制の運営状況、実中研の研究成果、研究結果に関する報告文書を作成し、定例会議に提出して説明しなければならない。

2010年7月28日改訂

財団法人 実験動物中央研究所維持会員名簿

(平成 22 年 3 月 31 日現在)

アステラス製薬株式会社	大鵬薬品工業株式会社
アスピオファーマ株式会社	タカラバイオ株式会社
エーザイ株式会社	武田薬品工業株式会社
大塚製薬株式会社	第一三共株式会社
株式会社クレハ	田辺三菱製薬株式会社
株式会社コーガアイソトープ	中外製薬株式会社
株式会社ヤクルト本社	日産化学工業株式会社
協和発酵キリン株式会社	日本たばこ産業株式会社
参天製薬株式会社	日本化薬株式会社
塩野義製薬株式会社	明治製菓株式会社
大正製薬株式会社	わかもと製薬株式会社

計 22 社 (50 音順)